

フィデリティ・グローバル・センチメント・サーベイ

2023

フィデリティ・インスティテュート首席研究員
浦田春河



グローバル・センチメント・サーベイ

世界23の国や地域を対象に、人々の心理状況、ウェルビーイング、お金の事情等を調査比較。

調査・分析期間: 2023年7月-10月

調査対象: 以下のとおり

調査・分析期間: 2023年7-10月

調査対象: 以下のとおり

グローバル

26,000人

ヨーロッパ・中東

英国: 1,000 スイス: 1,000
フランス: 1,000 スウェーデン: 1,000
イタリア: 1,000 サウジアラビア: 1,000
ドイツ: 1,000 UAE: 1,000
スペイン: 1,000
オランダ: 1,000
アイルランド: 1,000
デンマーク: 1,000

アメリカ

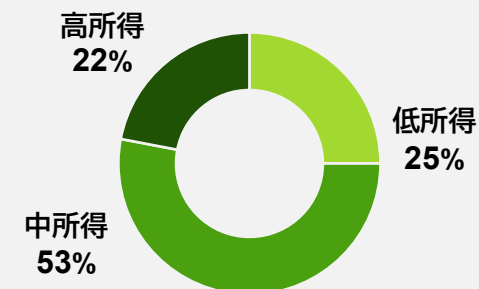
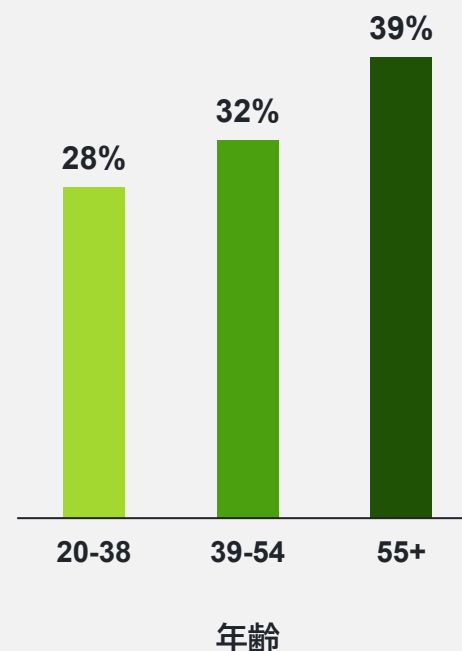
米国: 2,000
カナダ: 1,000
ブラジル: 1,000
メキシコ: 1,000

アジア太平洋

日本: 2,000
香港: 1,000
インド: 1,000
中国: 2,000
オーストラリア: 1,000
シンガポール: 1,000
韓国: 1,000

日本

2,000人



低所得: 年間500万円以下
中所得: 年間500万円超~1,100万円以下
高所得: 年間1,100万円以上

調査の概要

ウェルビーイング

- いわゆるグローバルサウスの国々でポジティブな心理状況が多く観察されるが、同時に疲労感・ストレスも強い模様
- ストレス要因はグローバルも日本も「インフレ」がトップ
- 日本人のウェルビーイングは「健康」「生活」「仕事」「お金」の各要素でグローバルより低め。「お金」は悪化傾向にある

金融行動

- インフレの影響で「お金を使いすぎた」との回答が増加した。ただし、若年層と高所得層は引き続き貯蓄を増やした
- 日本人はグローバル比較で借金の水準が低く、かなり先までお金の心配をしている
- 日本ではソーシャルメディア(SNS等)の利用が他国より高い。ファイナンシャル・アドバイザーの活用率は低いが、少しずつ増加している

老後準備

- 日本を含め平均寿命が長い国では、老後の心配事項のトップは「健康問題」。低所得層は「老後も働き続けなければならない」が高い懸念
- 日本は、リタイア後の生活費について「わからない」とする人が多い。高所得層は企業年金、個人の貯蓄に頼る比率が高く、積立額も増やしている
- リタイア時期を遅らせる傾向は世界共通で続いており、理由として「老後資金が足りないから」がグローバルでも日本でも引き続き1位

仕事

- グローバルでは約半数の人が今の仕事に満足する一方、日本の満足度は最低。にもかかわらず、今後6か月以内に離職するとする割合は世界で最も低い
- 離職を考える理由のトップは「報酬が低いこと」。日本ではこれに加えて、「やりがいのなさ」や「ワークロード」が上位に来る
- 働き方として、ほとんどの国で「毎日オフィスで働きたい」が最も多く、「毎日リモートで働きたい」は少数派
- 自社株式の報酬・福利厚生制度としての活用は、日本が世界最低レベル。資産運用立国を一層推進する上で、従業員への株式報酬の普及が重要

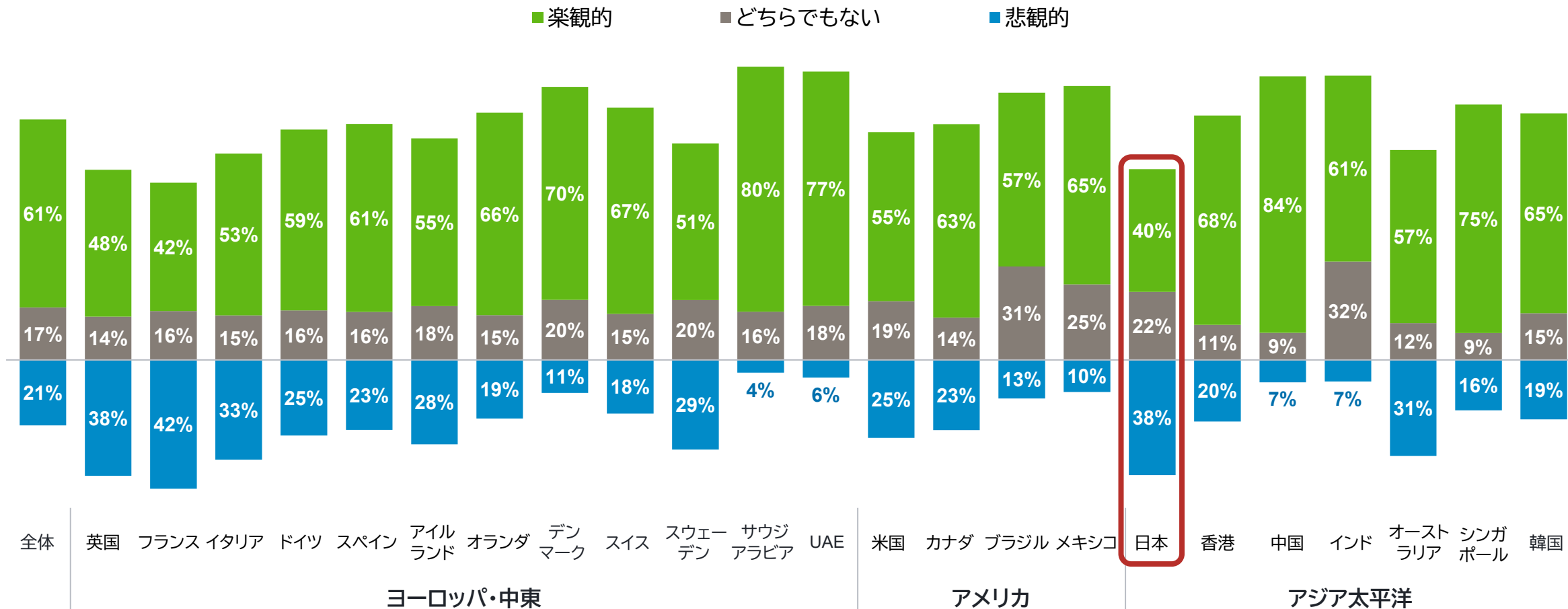
■ 内容

◆ ウェルビーイング		P. 5-15
◆ 金融行動		P.16-32
◆ 老後に向けた準備		P.33-43
◆ 仕事		P.44-57

State of Play ウェルビーイング

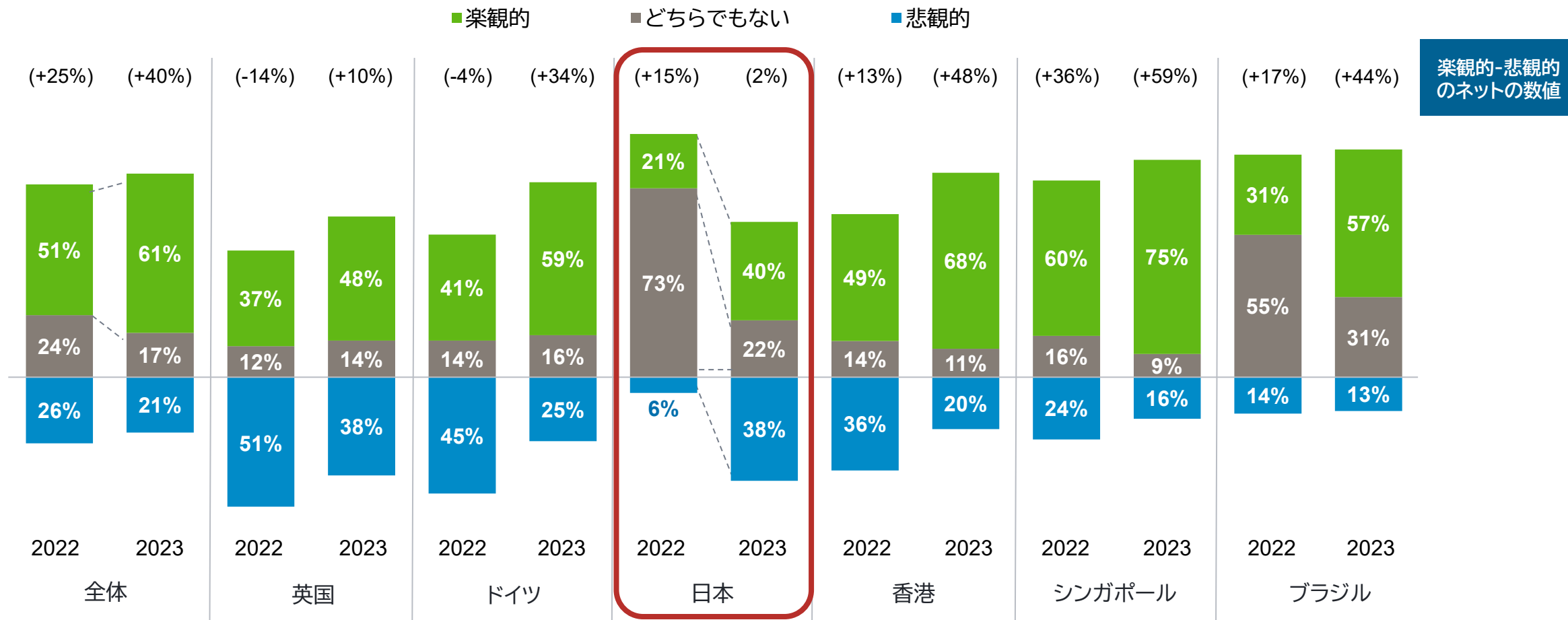
◆ この先6か月の主観的見通し：中東とアジアの人は楽観的な人が多い一方、日本は西欧と並んで悲観的な人が多い

Q この先6ヶ月について、あなたは楽観的に感じていますか、それとも悲観的に感じていますか？



◆ 世界全体で楽観度は昨年より上昇(ネットの楽観度は+15%)
欧州、アジア、南米で顕著。日本は楽観度、悲観度ともに上昇している

Q この先6ヶ月について、あなたは楽観的に感じていますか、それとも悲観的に感じていますか？



◆ ポジティブな心理状況：中東、インド、米国、南米でポジティブな心理を持つ人が多い

Q 過去6ヶ月間に以下の感情を経験しましたか？（「強く感じた」と回答した人の割合）

		ヨーロッパ・中東												アメリカ				アジア太平洋							
		全体	英国	フランス	イタリア	ドイツ	スペイン	アイルランド	オランダ	デンマーク	スイス	スウェーデン	サウジアラビア	UAE	米国	カナダ	ブラジル	メキシコ	日本	香港	中国	インド	オーストラリア	シンガポール	韓国
ポジティブな心理	穏やか	54%	43%	55%	55%	51%	58%	47%	63%	64%	51%	50%	60%	63%	60%	51%	64%	66%	35%	53%	48%	72%	51%	46%	52%
	自信がある	49%	32%	50%	41%	46%	60%	40%	55%	49%	49%	38%	66%	67%	59%	48%	70%	70%	14%	43%	53%	78%	46%	41%	37%
	希望に満ちている	47%	31%	46%	43%	40%	49%	44%	50%	51%	47%	35%	64%	66%	57%	45%	69%	63%	12%	42%	50%	74%	45%	39%	40%
	エネルギーが ギッシュ	44%	27%	58%	37%	35%	51%	35%	46%	43%	41%	29%	65%	67%	50%	39%	56%	56%	13%	41%	48%	73%	37%	37%	38%
	刺激を受けている	39%	21%	57%	32%	33%	45%	26%	41%	42%	44%	29%	56%	59%	43%	28%	63%	61%	11%	33%	37%	70%	31%	35%	22%

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
 ■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ ネガティブな心理状況：世界の労働者の3分の1以上が疲労感やストレスを持つ。 西欧、ブラジル、インド、オーストラリア、韓国で顕著

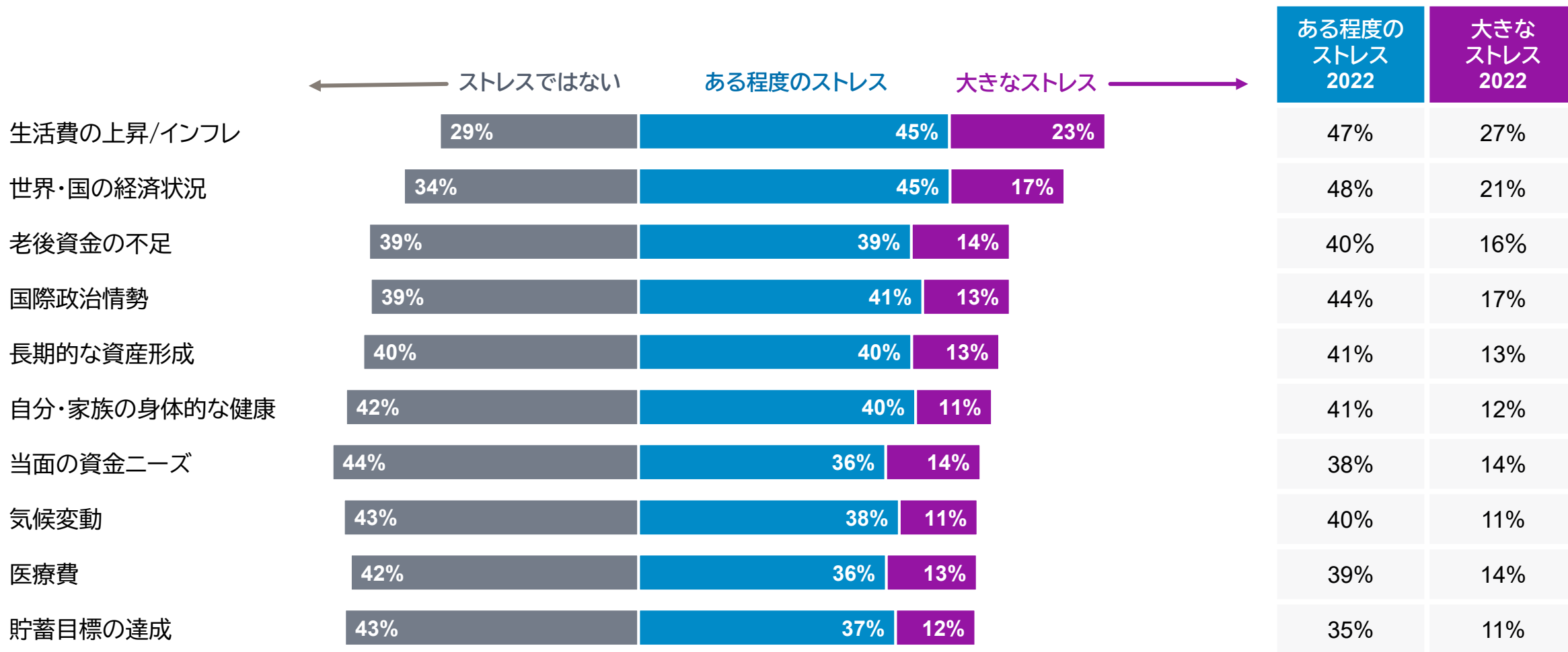
Q 過去6ヶ月間に以下の感情を経験しましたか？（「強く感じた」と回答した人の割合）

		ヨーロッパ・中東													アメリカ				アジア太平洋						
		全体	英国	フランス	イタリア	ドイツ	スペイン	アイルランド	オランダ	デンマーク	スイス	スウェーデン	サウジアラビア	UAE	米国	カナダ	ブラジル	メキシコ	日本	香港	中国	インド	オーストラリア	シンガポール	韓国
ネガティブな心理	疲れている	37%	42%	47%	40%	33%	34%	47%	39%	44%	40%	28%	33%	33%	34%	35%	49%	32%	37%	35%	17%	38%	43%	37%	47%
	ストレスを感じる	34%	35%	39%	44%	31%	37%	41%	27%	27%	34%	36%	33%	35%	35%	34%	36%	37%	35%	28%	20%	41%	38%	35%	41%
	不安である	32%	38%	40%	40%	33%	36%	39%	22%	31%	35%	27%	27%	32%	31%	33%	45%	34%	24%	29%	15%	40%	38%	31%	37%
	腹が立つ	20%	19%	24%	20%	18%	21%	20%	14%	18%	22%	16%	25%	26%	14%	18%	30%	19%	19%	17%	10%	34%	19%	26%	18%

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

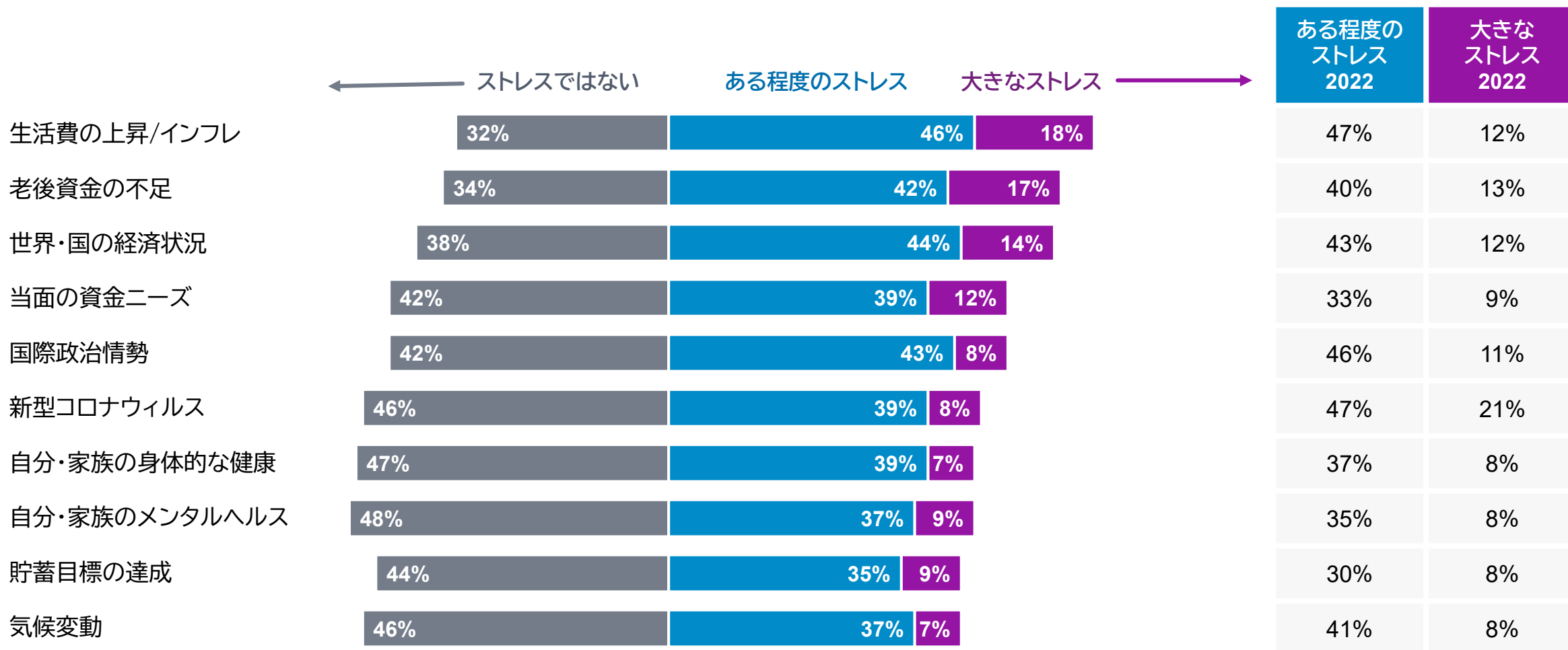
◆ ストレスを感じる事項：グローバルではインフレが昨年に引き続きトップ

Q あなたは以下の項目について、どの程度ストレスを感じていますか？ – 上位10項目



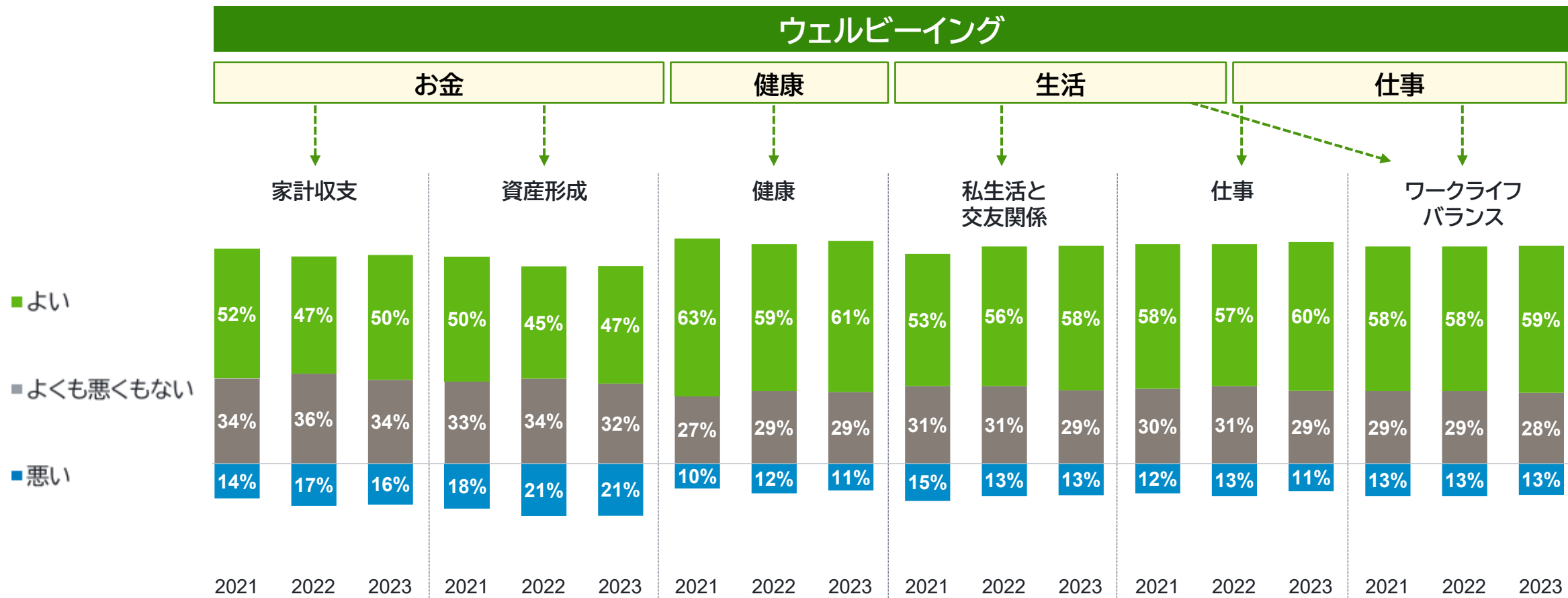
◆ ストレスを感じる事項：日本ではインフレと老後資金の不足が大きなストレス要因

Q あなたは以下の項目について、どの程度ストレスを感じていますか？ – 上位10項目



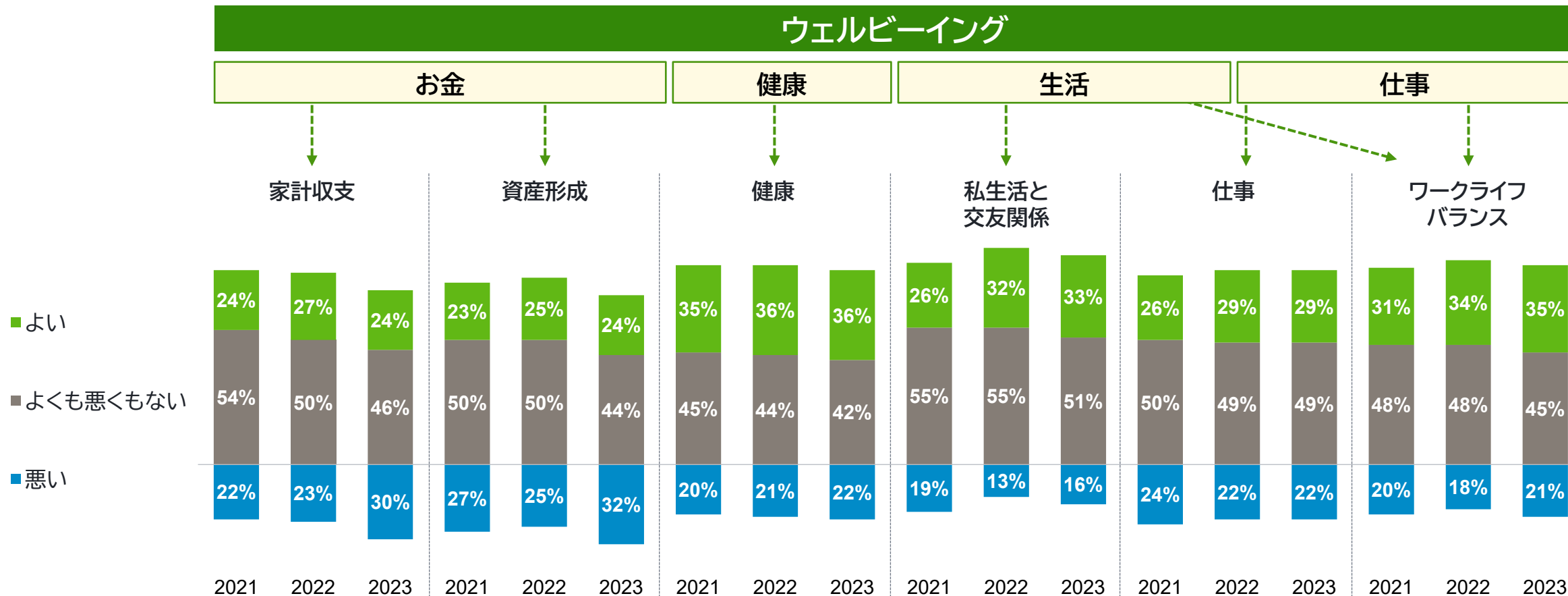
◆ ウェルビーイングの構成要素のうち、健康、生活、仕事の面では6割近くの人がよいと回答。前年よりわずかに改善しているが、お金関連は悪化

Q ウェルビーイングを構成する以下の要素について、あなたはどのように感じていますか？



◆ グローバルの回答と比較すると日本人の回答はどの分野もやや低め。 特にお金関連は悪化傾向

Q ウェルビーイングを構成する以下の要素について、あなたはどのように感じていますか？



- ◆ ウェルビーイングの構成要素は、国による差異が激しい。
中東、中国、インド、米国、ブラジルは、すべて「よい」が多い。一方、日本は、香港、韓国、英国とともに「よい」の回答が少ない。

Q ウェルビーイングを構成する以下の要素について、あなたはどのように感じていますか？

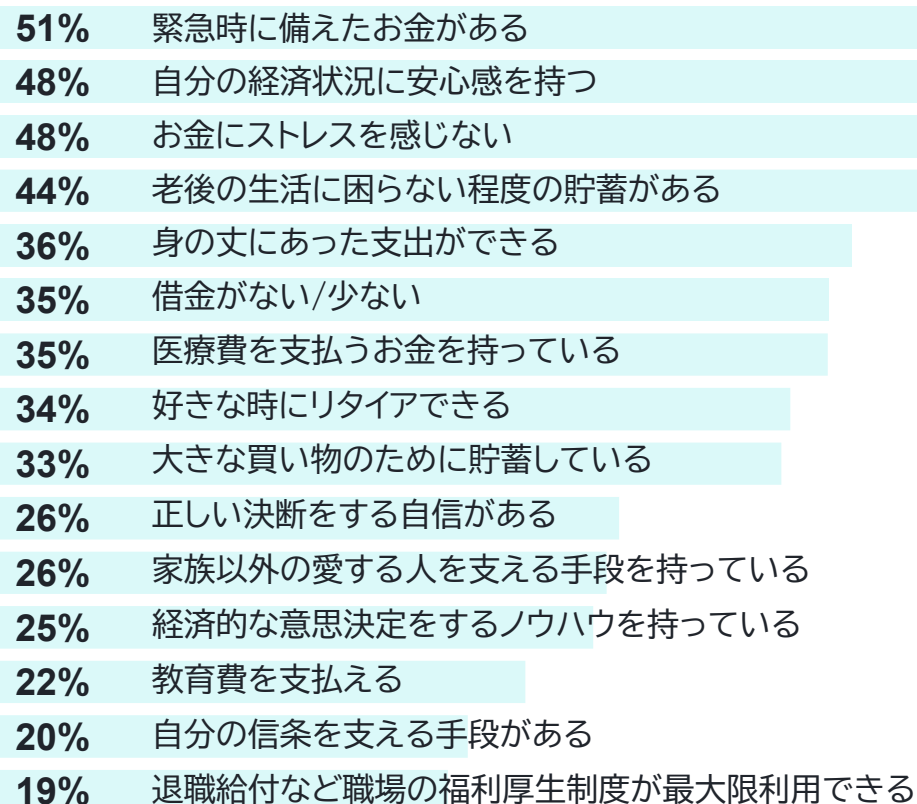
よいと回答した人の%	英国	フランス	イタリア	ドイツ	スペイン	アイルランド	オランダ	デンマーク	スイス	スウェーデン	サウジアラビア	UAE	米国	カナダ	ブラジル	メキシコ	日本	香港	中国	インド	オーストラリア	シンガポール	韓国
家計収支	45%	46%	43%	49%	51%	44%	61%	58%	44%	48%	65%	62%	59%	54%	75%	39%	24%	46%	58%	76%	48%	43%	25%
資産形成	42%	47%	40%	46%	47%	35%	56%	54%	42%	42%	58%	56%	55%	48%	72%	36%	24%	43%	57%	75%	44%	45%	23%
健康	53%	64%	70%	59%	64%	62%	60%	59%	60%	55%	74%	76%	71%	63%	82%	65%	36%	46%	65%	84%	59%	47%	28%
私生活と交友関係	46%	66%	57%	63%	66%	46%	65%	62%	58%	56%	72%	74%	65%	56%	75%	64%	33%	44%	63%	81%	55%	43%	33%
仕事	47%	61%	62%	64%	63%	60%	69%	68%	58%	62%	67%	66%	73%	62%	81%	62%	29%	46%	65%	83%	61%	46%	30%
ワークライフバランス	54%	64%	57%	58%	63%	57%	64%	65%	57%	58%	66%	65%	71%	61%	76%	59%	35%	46%	63%	80%	61%	48%	35%

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

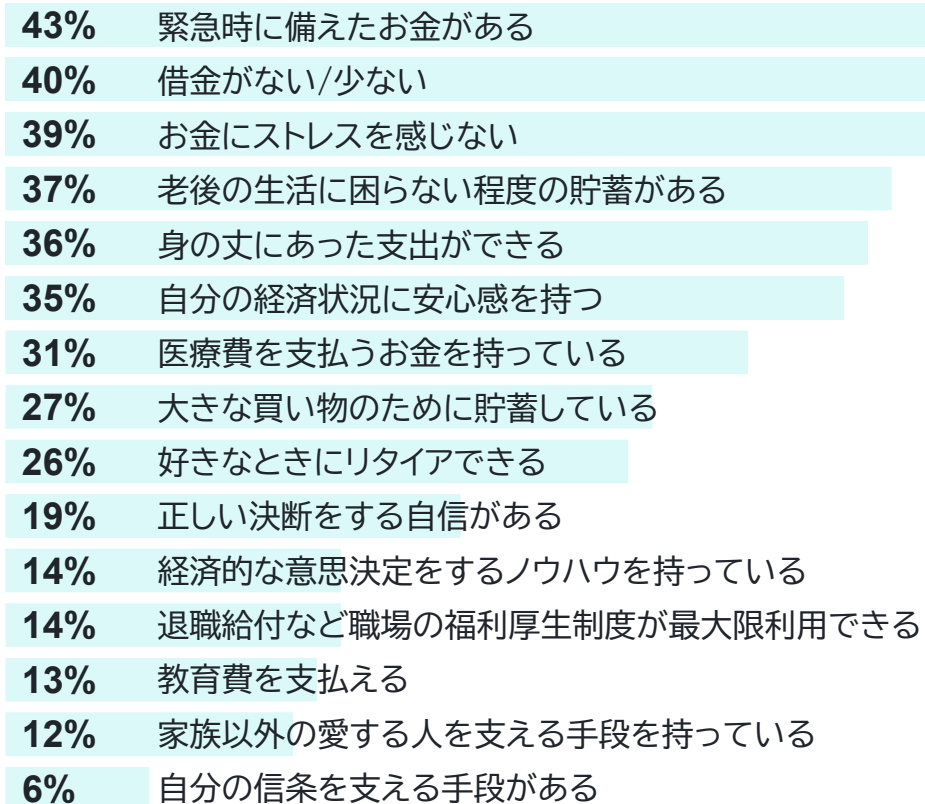
◆「経済的な豊かさ」とはどういう意味か：グローバルも日本も「緊急時に備えたお金がある」がトップ。日本では「借金がない/少ない」が上位に来る

Q あなたにとって「経済的に豊かである」とはどういうことですか？

グローバル



日本

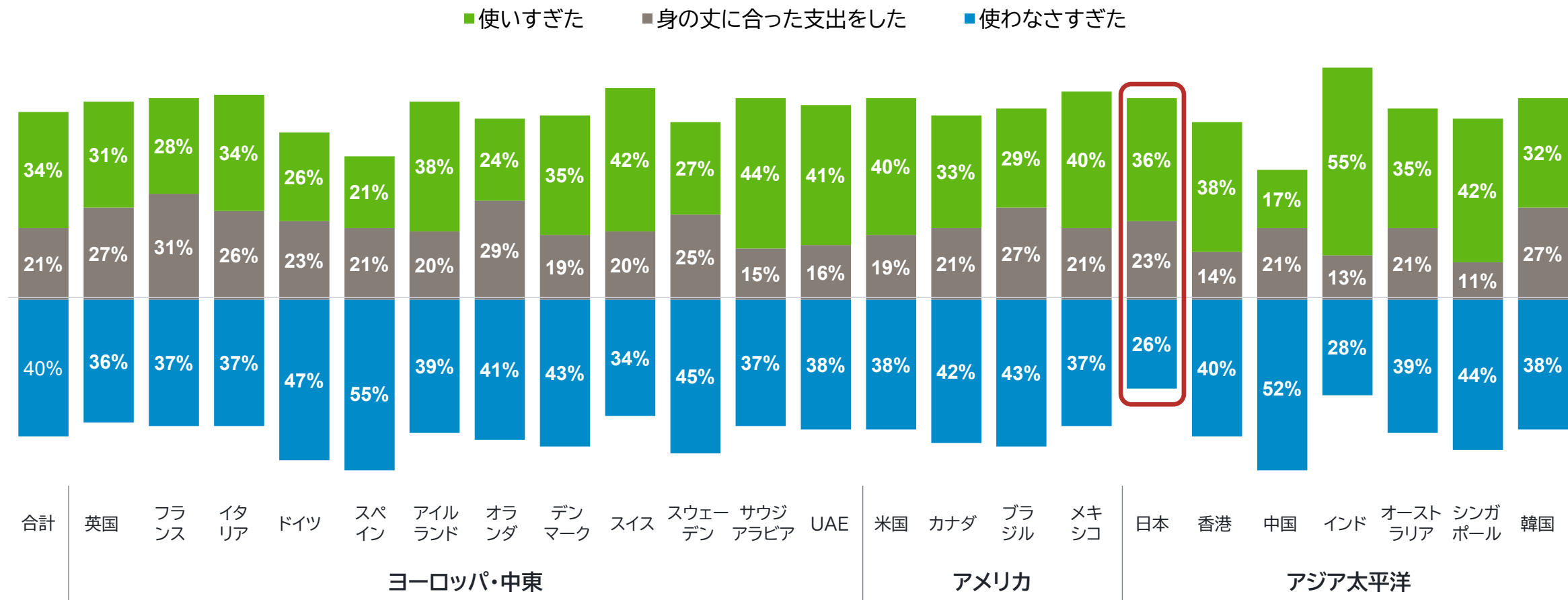


Financial Behaviour

金融行動

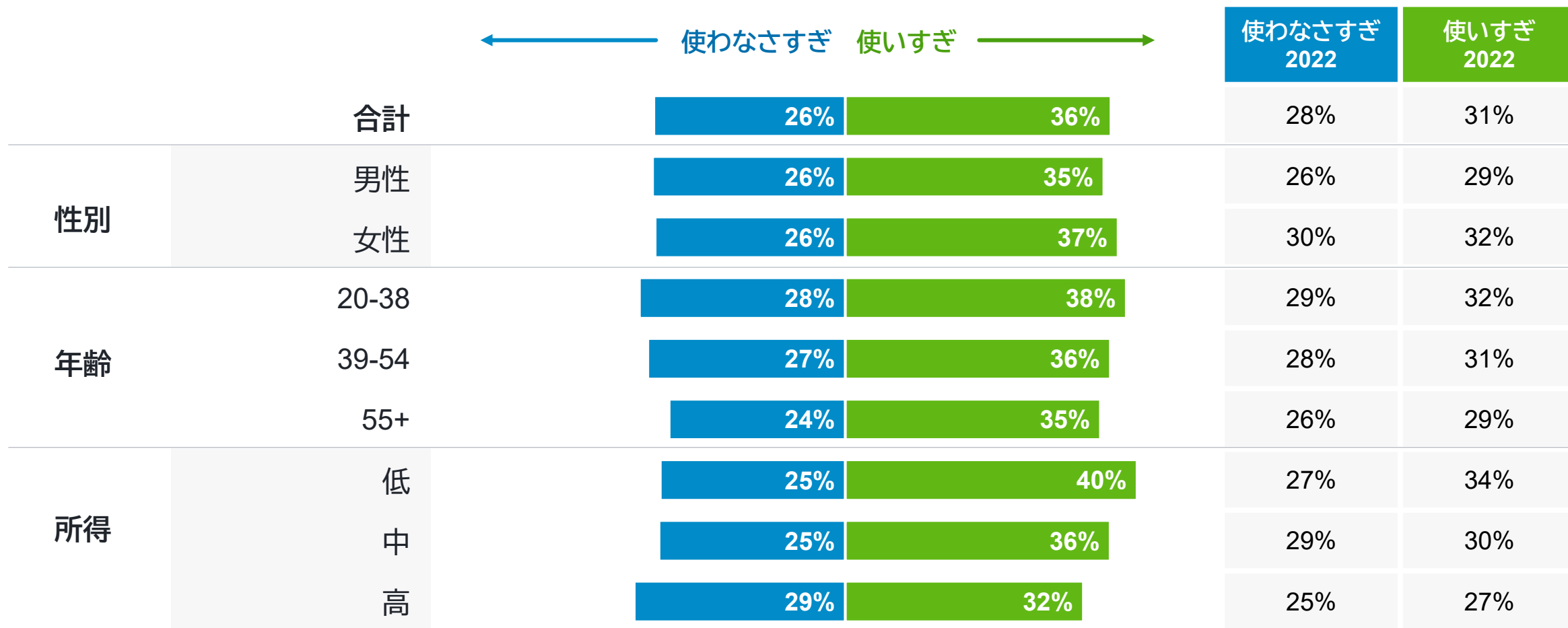
◆ 家計支出：世界の3分の1の人が「使いすぎた」と回答。
インドが最も高い。逆に中国は「使わなさすぎ」が最も多く、5人に2人が回答

Q 過去6ヶ月間の支出は、ご自分の財政事情に見合う金額でしたか（使いすぎたり、逆に使わなさすぎた、という感覚はありましたか）？



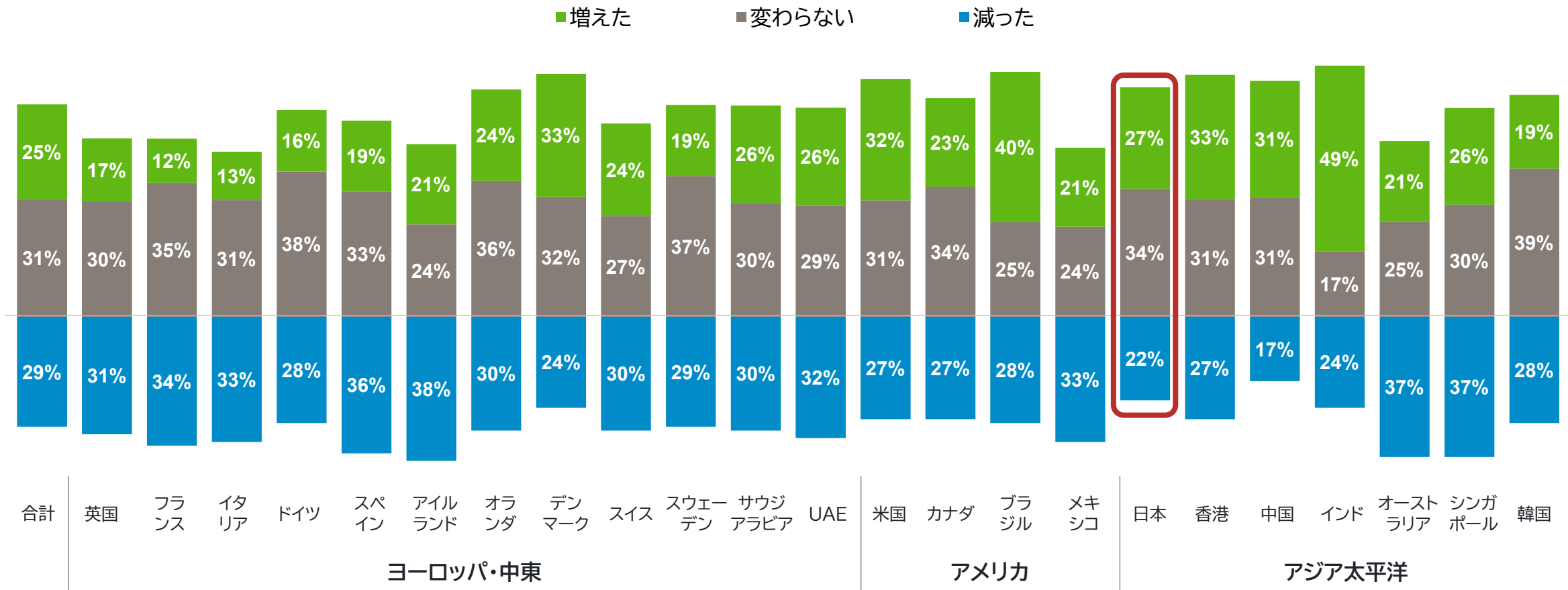
◆ 家計支出：日本では「使いすぎた」と回答する人が増加。低所得層で顕著

Q 過去6ヶ月間の支出は、ご自分の財政事情に見合う金額でしたか（使いすぎたり、逆に使わなさすぎた、という感覚はありましたか）？



◆ 貯蓄：グローバルで4人に一人が過去6カ月間に貯蓄額を増やした。
特に、インド、ブラジル、米国で多い。逆に「増やした」が少ないのは欧州各国。

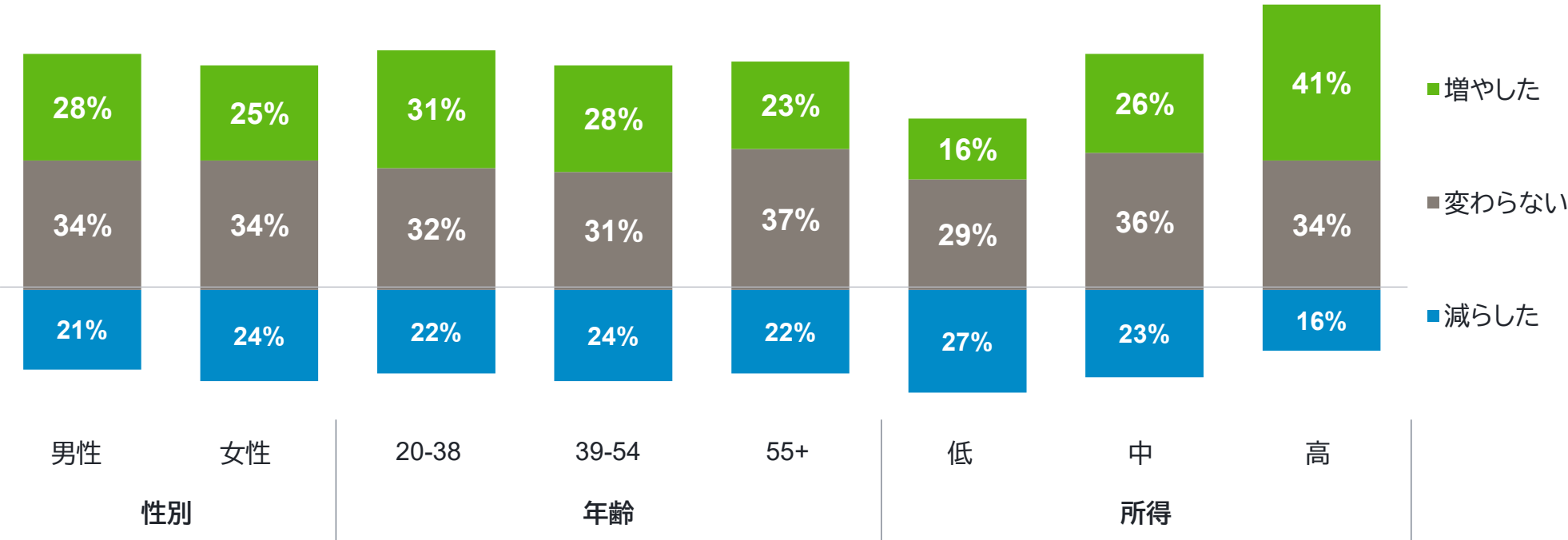
Q 過去6ヶ月間は、それ以前と比べて貯蓄額が増えましたか、減りましたか？



◆ 貯蓄：日本人は若年層および高所得層が貯蓄を増やした

Q 過去6ヶ月間は、それ以前と比べて貯蓄額が増えましたか、減りましたか？

6%	11%	11%	7%	9%	0%	7%	25%	2021	「増やした」-「減らした」 のネット値
11%	13%	21%	5%	11%	5%	9%	29%	2022	
7%	1%	10%	3%	1%	-12%	3%	25%	2023	



◆ 貯蓄が減少した人の主たる要因は家計支出の増加

Q 貯蓄が減った原因は何ですか？

		英国	フランス	イタリア	ドイツ	スペイン	アイルランド	オランダ	デンマーク	スイス	スウェーデン	サウジアラビア	UAE	米国	カナダ	ブラジル	メキシコ	日本	香港	中国	インド	オーストラリア	シンガポール	韓国
(52%)	47%	60%	52%	46%	56%	43%	62%	42%	43%	36%	47%	35%	42%	52%	51%	32%	40%	55%	48%	48%	39%	58%	36%	36%
(22%)	22%	14%	16%	22%	16%	31%	19%	16%	24%	27%	13%	25%	22%	18%	16%	39%	24%	16%	30%	25%	32%	19%	31%	19%
(24%)	19%	16%	20%	15%	21%	11%	18%	14%	17%	11%	14%	22%	30%	21%	20%	12%	19%	7%	31%	24%	25%	18%	30%	17%
(NA)	19%	13%	11%	7%	14%	18%	16%	15%	14%	15%	22%	22%	24%	26%	24%	24%	29%	6%	23%	22%	24%	22%	20%	18%
(12%)	12%	8%	7%	7%	15%	7%	10%	11%	17%	10%	12%	14%	16%	14%	7%	9%	12%	9%	10%	15%	27%	10%	14%	16%
(12%)	10%	11%	6%	10%	7%	7%	6%	7%	13%	11%	6%	13%	10%	11%	7%	8%	9%	9%	16%	14%	17%	5%	13%	16%
(10%)	9%	8%	4%	7%	7%	5%	8%	10%	12%	10%	5%	13%	11%	8%	9%	8%	8%	7%	10%	10%	19%	8%	11%	8%
(11%)	9%	6%	5%	8%	7%	9%	6%	8%	8%	10%	5%	14%	11%	6%	7%	5%	13%	4%	10%	13%	17%	8%	13%	7%
(6%)	6%	5%	4%	4%	7%	5%	4%	4%	9%	8%	3%	13%	8%	6%	5%	2%	4%	3%	7%	9%	15%	3%	8%	3%

(カッコ内は2022年)

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ 日本でも、家計支出の増加が貯蓄減少の主な要因

Q 貯蓄が減った原因は何ですか？

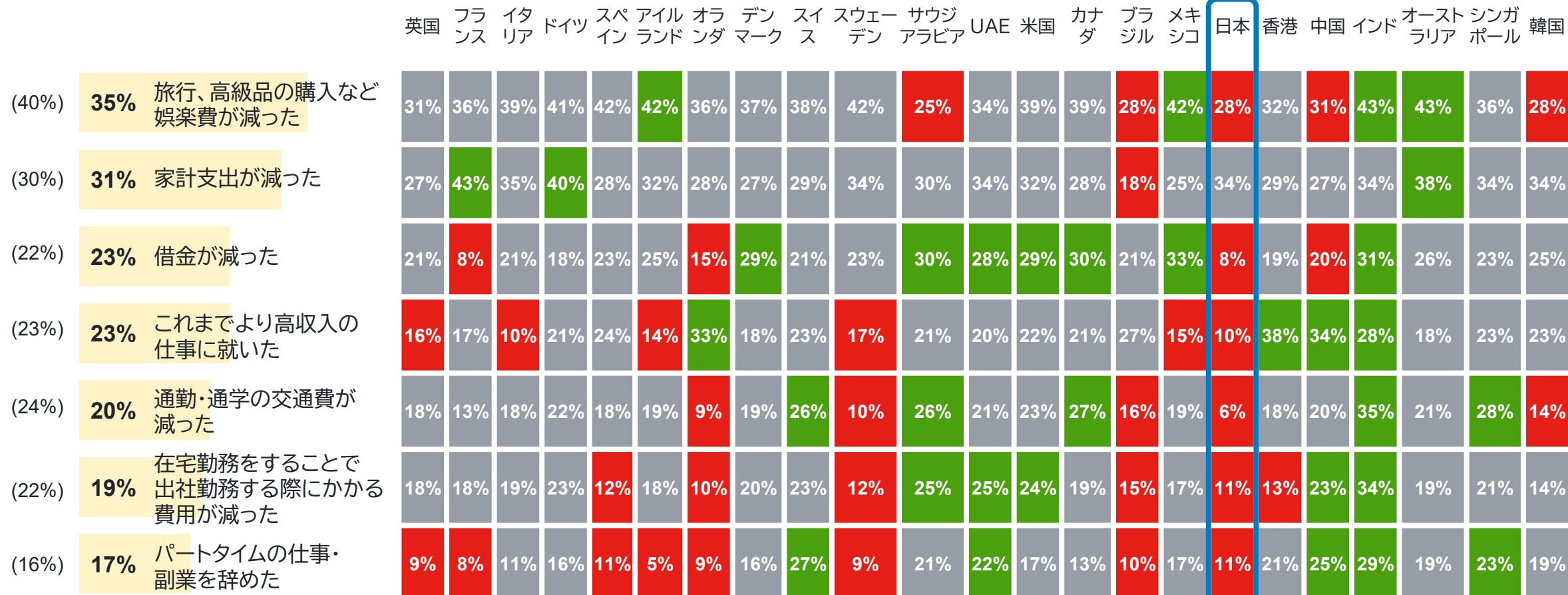
2022	2021			男性	女性	20-38	39-54	55+	低所得	中所得	高所得
(58%)	(54%)	55%	家計支出が増えた	57%	53%	47%	61%	54%	47%	61%	49%
(12%)	(7%)	16%	旅行、高級品の購入など娯楽費が増えた	17%	16%	18%	17%	14%	18%	16%	14%
(11%)	(10%)	9%	体調不良により自分または家族の勤務時間が減った	10%	9%	14%	6%	9%	10%	9%	8%
(9%)	(12%)	9%	これまでより低収入の職業に就いた	12%	6%	9%	7%	10%	12%	8%	5%
(6%)	(7%)	7%	解雇・一時的な解雇を受けた	6%	8%	11%	7%	5%	11%	6%	7%
(8%)	(3%)	7%	通勤・通学の交通費が増えた	8%	6%	11%	7%	4%	4%	8%	11%
(NA)	(NA)	6%	借金の返済を増やした	9%	4%	7%	6%	6%	6%	7%	5%
(6%)	(8%)	4%	パートタイムの仕事・副業を辞めた	5%	4%	8%	4%	2%	3%	4%	10%
(2%)	(0%)	4%	離婚した	4%	3%	5%	1%	5%	4%	3%	3%
(4%)	(1%)	3%	家族が亡くなった	4%	3%	7%	3%	1%	3%	3%	6%

(カッコ内は2022年)

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
 ■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ 貯蓄が増加した人の主たる要因：娯楽費や家計支出の減少

Q 貯蓄が増えた原因は何ですか？



(カッコ内は2022年)

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ 日本でも、家計支出の減少と娯楽費などの余分な出費の減少が貯蓄増加につながっている

Q 貯蓄が増えた原因は何ですか？

		男性	女性	20-38	39-54	55+	低所得	中所得	高所得
(37%)	34% 家計支出が減った	34%	34%	38%	29%	36%	46%	31%	34%
(37%)	28% 旅行、高級品の購入など娯楽費が減った	24%	33%	25%	31%	29%	20%	29%	30%
(11%)	11% 在宅勤務をすることで出社勤務する際にかかる費用が減った	12%	9%	15%	11%	6%	10%	9%	14%
(8%)	11% パートタイムの仕事・副業を始めた	11%	10%	18%	10%	5%	7%	10%	14%
(11%)	10% これまでより高収入の仕事に就いた	11%	8%	10%	13%	7%	7%	9%	12%
(8%)	8% 借金が減った	9%	6%	7%	8%	8%	3%	10%	7%
(7%)	6% 通勤・通学の交通費が減った	5%	7%	8%	8%	2%	2%	6%	7%

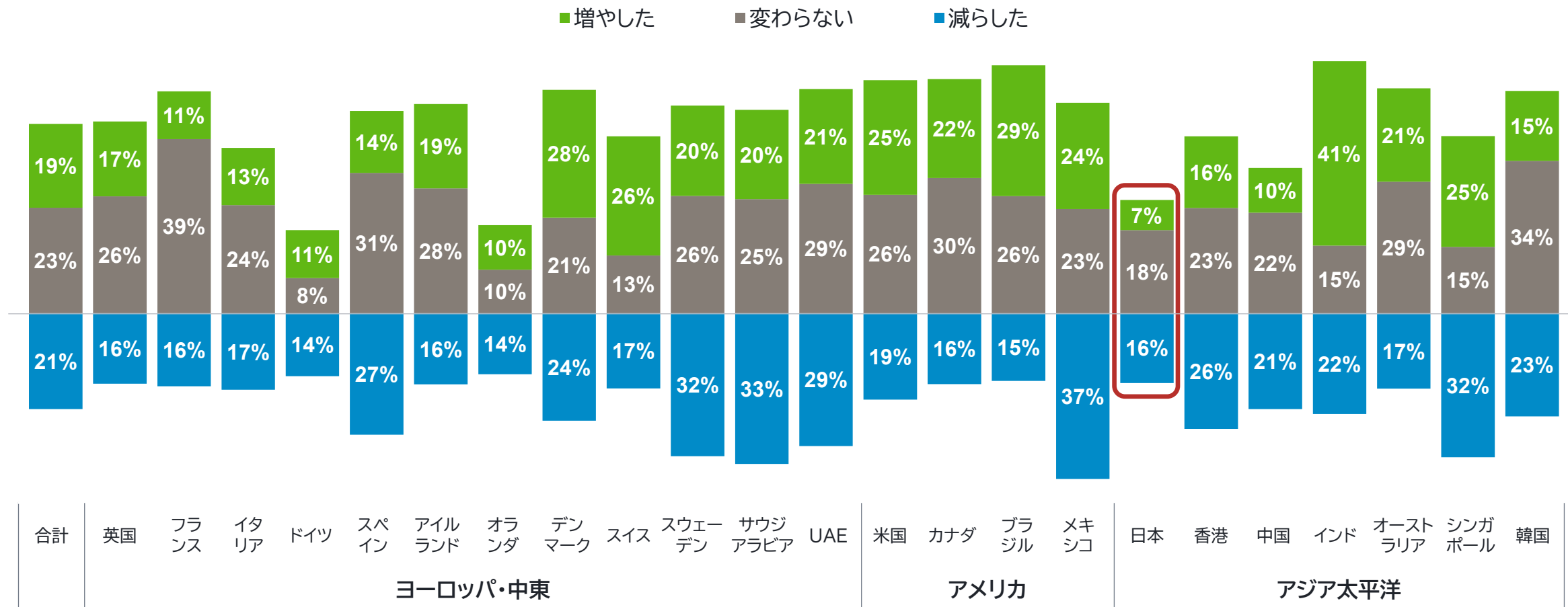
(カッコ内は2022年)

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)

■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

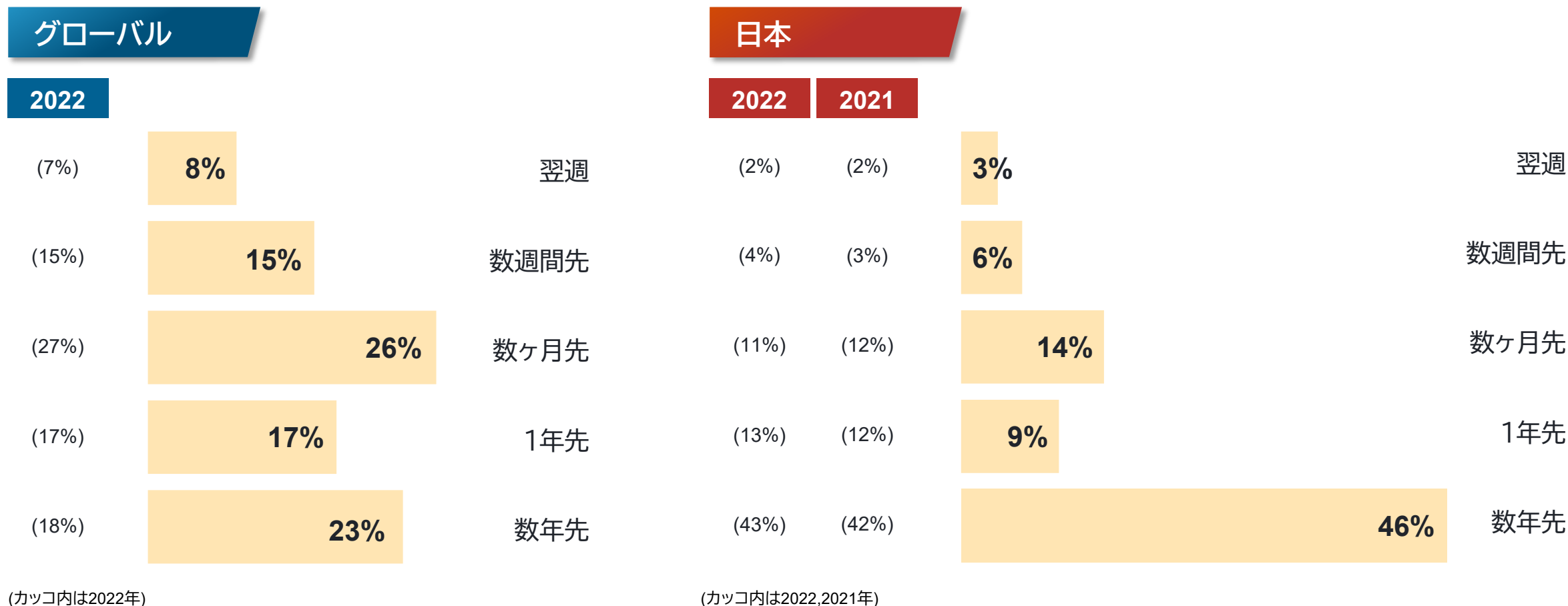
◆ 借金の水準：国による差異が大きい
日本人の借入水準は歴史的に低い一方、インドでは借金を増やした人が多かった。

Q 過去6ヶ月間で借入額を増やしましたか、減らしましたか？



◆ 家計ホライズン: どれくらい先までお金のやりくりについて計画をしているか？ 日本人はグローバルと比べて、かなり先までお金の心配をしている

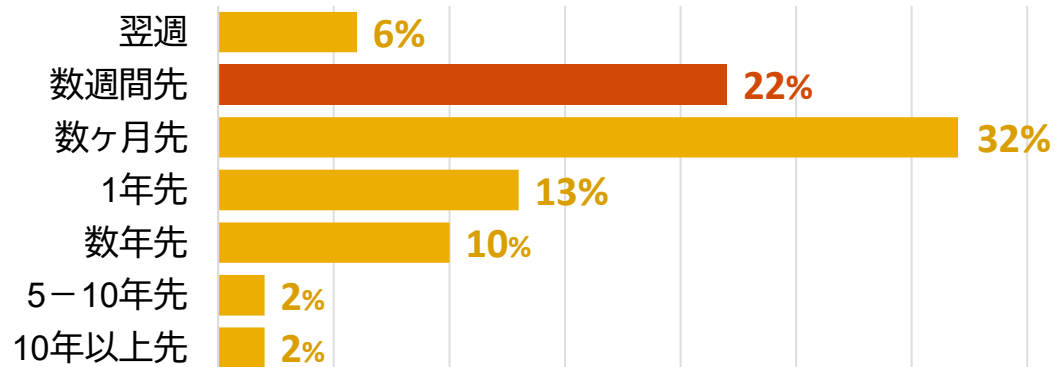
Q あなたはどれくらい先までお金のやりくりについて計画していますか？



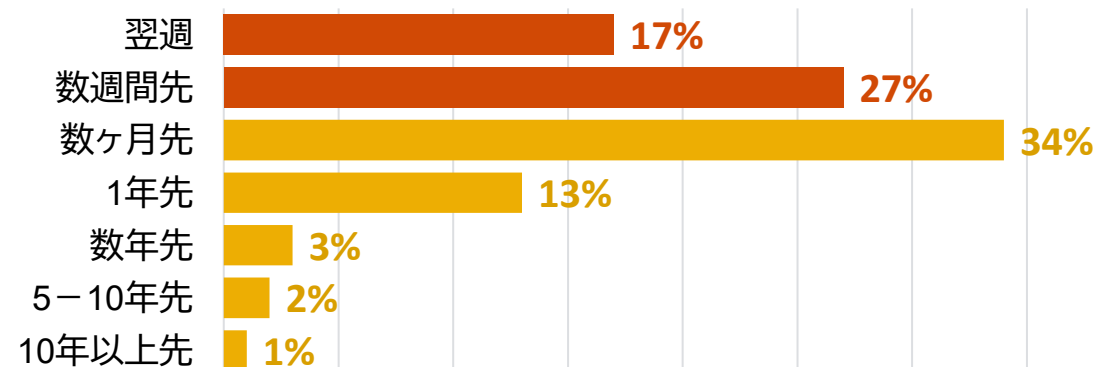
◆ 家計ホライズン：家計ホライズンが短い国

Q あなたはどれくらい先までお金のやりくりについて計画していますか？

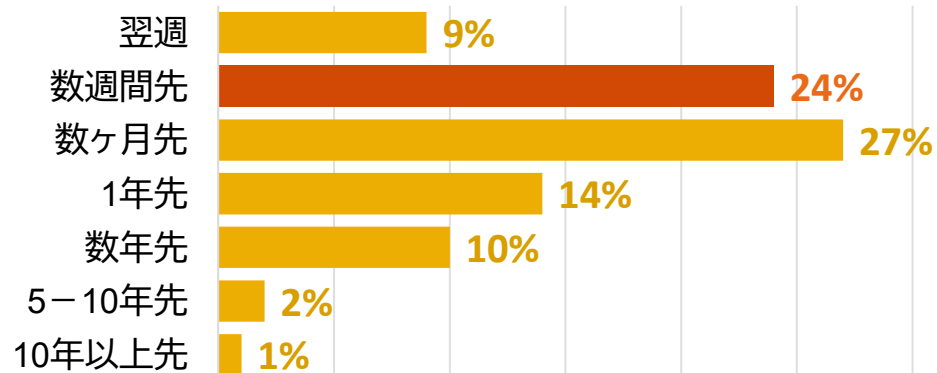
フランス



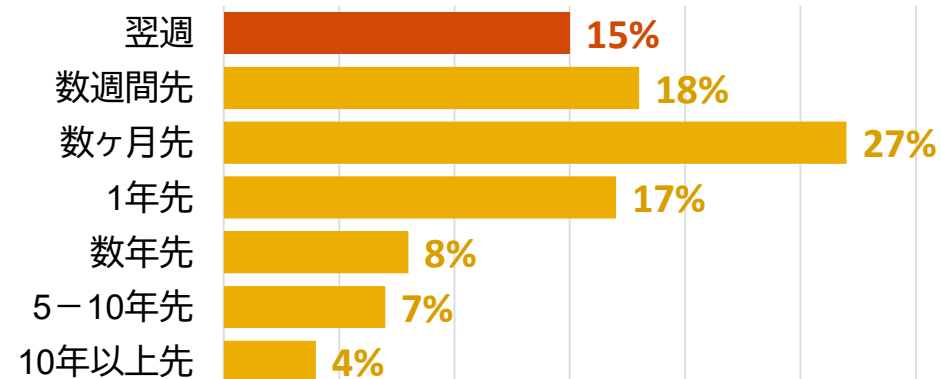
メキシコ



中国



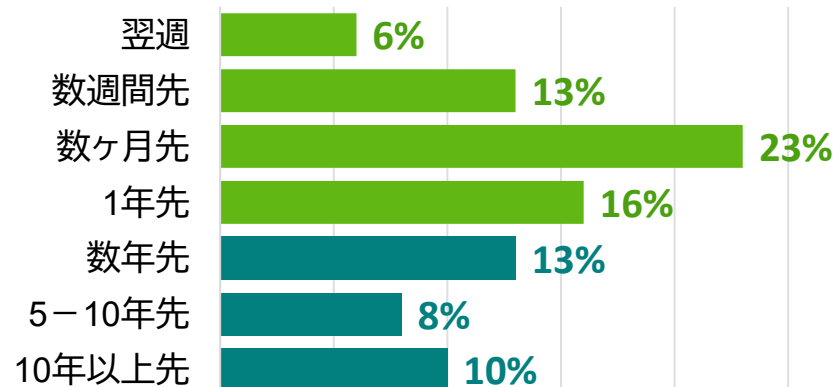
インド



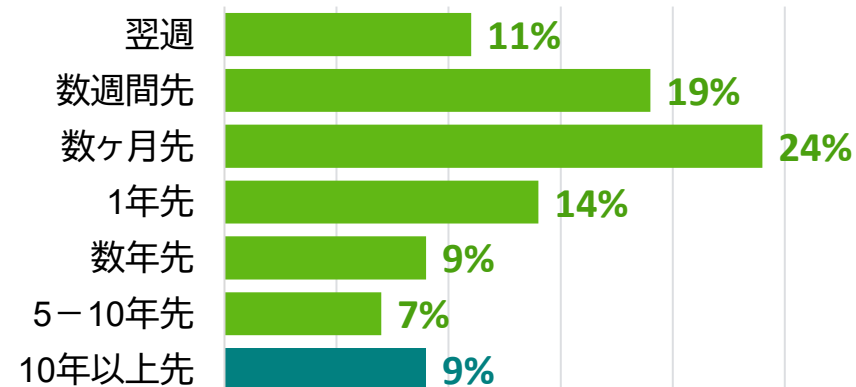
◆ 家計ホライズン：家計ホライズンが長い国

Q あなたはどれくらい先までお金のやりくりについて計画していますか？

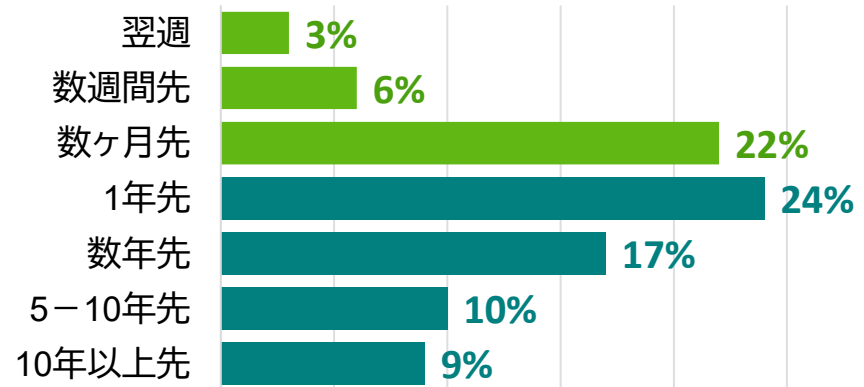
ドイツ



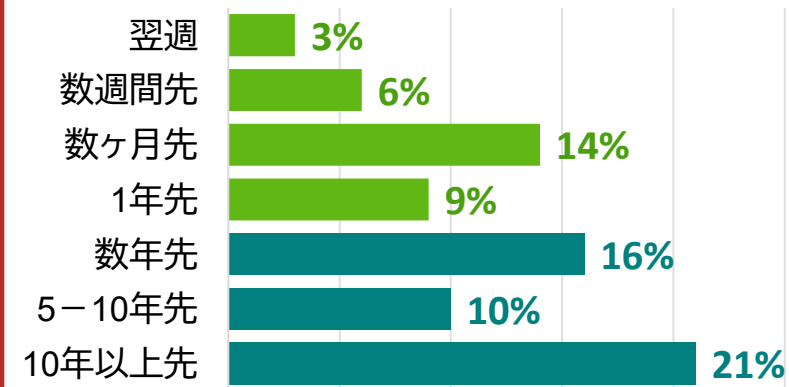
米国



韓国



日本

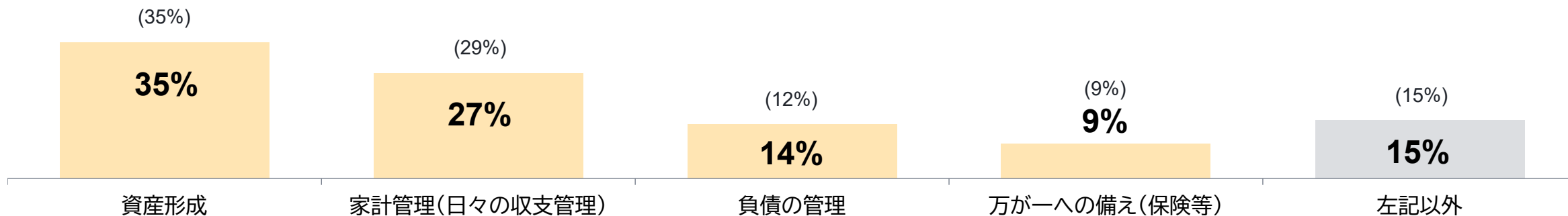


◆ 最も切実なお金の問題は“資産形成”、次いで日々の“家計管理”

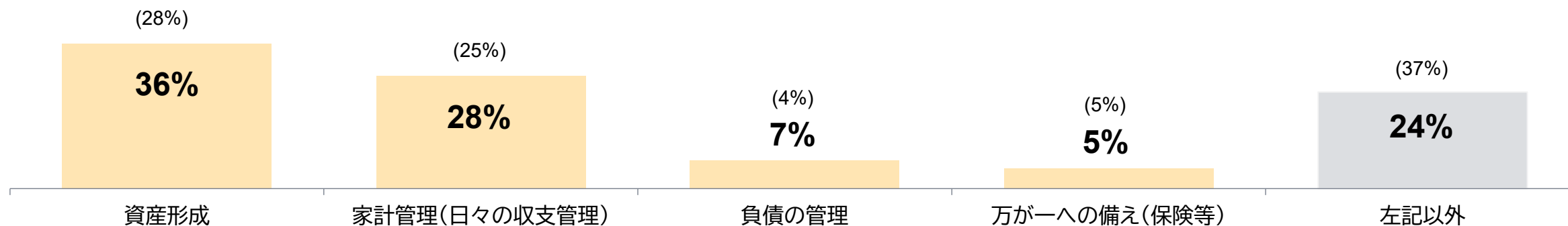
Q お金についての問題で、あなたにとって最も急を要している分野はどれですか？

グローバル

(カッコ内は2022年)



日本



◆ ファイナンシャル・アドバイスの利用：ファイナンシャル・アドバイザーが上位2位までに入るのは、英国、アイルランド、米国、カナダ、ブラジル、オーストラリア、シンガポールのみ

Q 過去6ヶ月間で、ファイナンシャル・アドバイスを求めましたか？ また、そのアドバイスにしたがって具体的な行動をとりましたか？

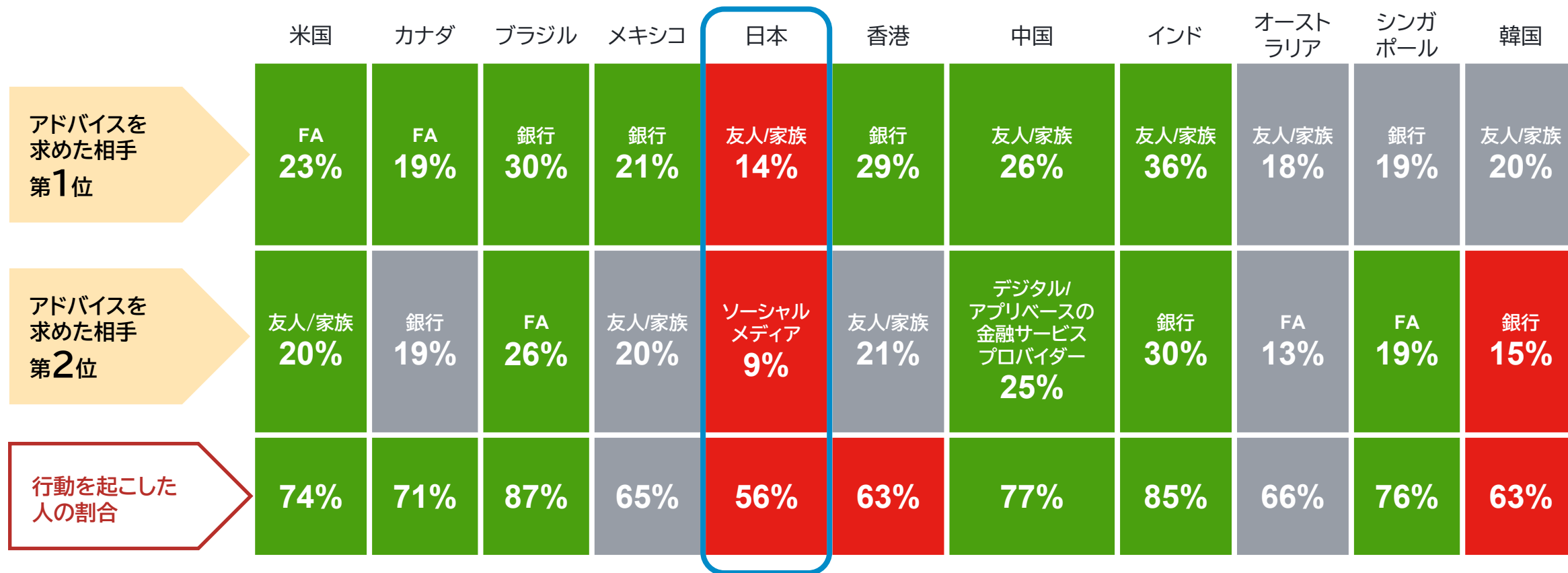
	英国	フランス	イタリア	ドイツ	スペイン	アイルランド	オランダ	デンマーク	スイス	スウェーデン	サウジアラビア	UAE
アドバイスを求めた相手 第1位	友人/家族 12%	銀行 22%	銀行 25%	友人/家族 15%	銀行 25%	FA 11%	友人/家族 11%	銀行 20%	銀行 16%	銀行 15%	友人/家族 28%	友人/家族 31%
アドバイスを求めた相手 第2位	FA 9%	友人/家族 11%	友人/家族 13%	銀行 13%	友人/家族 15%	銀行 11%	銀行 10%	友人/家族 14%	友人/家族 15%	友人/家族 12%	銀行 19%	ソーシャルメディア 22%
行動を起こした人の割合	56%	60%	38%	50%	59%	63%	58%	77%	70%	61%	59%	65%

FA: ファイナンシャル・アドバイザーもしくはブローカー

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ ファイナンシャル・アドバイスの利用：日本とUAEのみソーシャルメディア(SNS等)がトップ2に入る

Q 過去6ヶ月間で、ファイナンシャル・アドバイスを求めましたか？ また、そのアドバイスにしたがって具体的な行動をとりましたか？

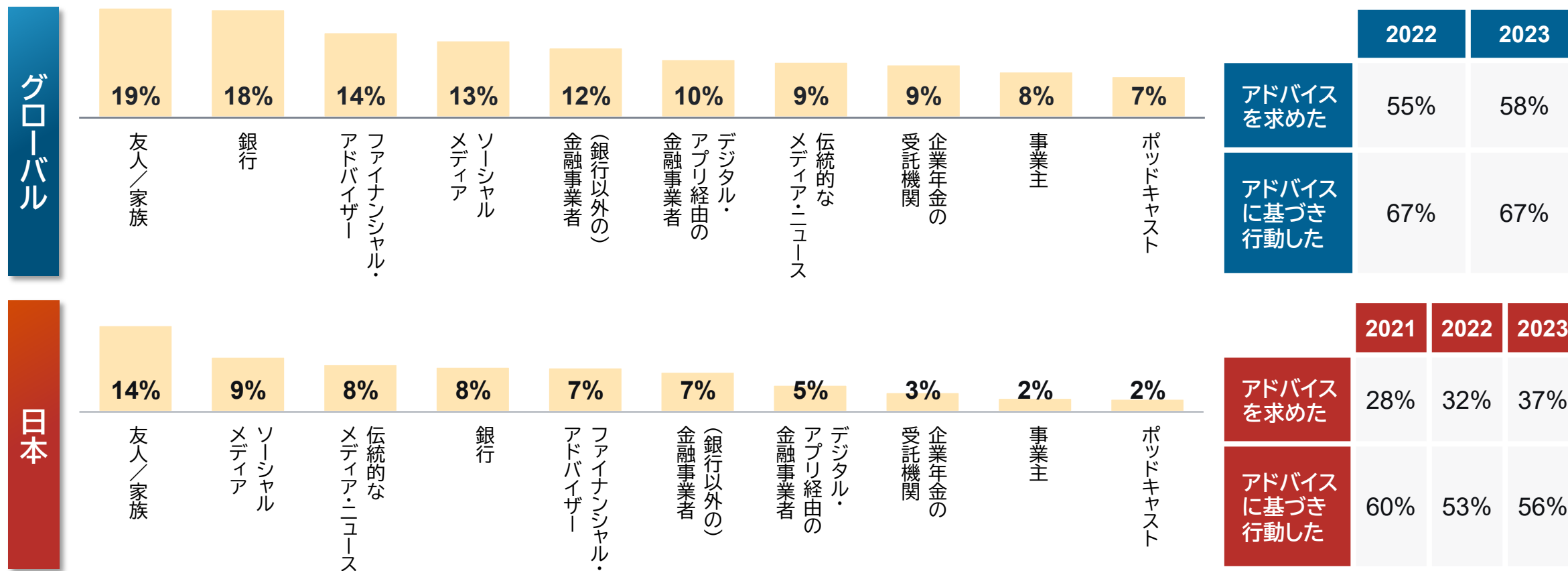


FA: ファイナンシャル・アドバイザーもしくはブローカー

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ ファイナンシャル・アドバイスの利用：アドバイスを求める人は日本では少ない。求めるとしたら、グローバルと同様に友人や家族が多い。日本ではソーシャルメディアの人気も高い

Q 過去6ヶ月間で、ファイナンシャル・アドバイスを求めましたか？ また、そのアドバイスにしたがって具体的な行動をとりましたか？



Retirement 老後に向けた準備

◆ 老後の心配事項: 「健康」「老後資金の枯渇」「予期せぬ出来事」がトップ3
「健康問題」が高いのは平均寿命上位に入る香港 (1位)、日本 (3位)、イタリア (6位)、韓国 (7位)、
スペイン (8位)

Q 老後の心配事項は何ですか？

		英国	フランス	イタリア	ドイツ	スペイン	アイルランド	オランダ	デンマーク	スイス	スウェーデン	サウジアラビア	UAE	米国	カナダ	ブラジル	メキシコ	日本	香港	中国	インド	オーストラリア	シンガポール	韓国
(44%)	40% 健康問題	36%	44%	44%	46%	46%	44%	41%	34%	42%	40%	25%	30%	36%	41%	42%	39%	47%	47%	43%	36%	33%	40%	49%
(29%)	27% 老後資金の枯渇	32%	8%	16%	30%	31%	36%	21%	31%	27%	24%	18%	19%	37%	39%	16%	35%	25%	35%	19%	23%	40%	30%	26%
(28%)	27% 予期せぬ出来事 (身近な人の死/資産喪失等)	25%	19%	28%	31%	27%	29%	25%	25%	32%	25%	18%	22%	30%	24%	29%	21%	28%	27%	27%	27%	24%	23%	39%
(23%)	23% 老後も働き続けること	24%	24%	20%	25%	16%	24%	23%	16%	23%	29%	20%	19%	29%	29%	24%	28%	20%	20%	14%	25%	28%	24%	26%
(21%)	20% 自分が家族にとって 負担となること	16%	17%	22%	18%	25%	20%	12%	16%	20%	15%	26%	26%	20%	16%	23%	30%	14%	26%	21%	21%	15%	26%	25%
(20%)	18% 家族の世話や介護	12%	16%	19%	13%	13%	16%	9%	10%	14%	8%	25%	28%	20%	14%	15%	13%	26%	23%	24%	32%	15%	24%	18%
(NA)	18% 国の政策変更による 老後準備への影響	16%	37%	9%	7%	23%	16%	20%	28%	18%	23%	15%	13%	17%	14%	28%	22%	17%	13%	17%	19%	17%	18%	8%
(18%)	16% リタイア後の収入確保の 方法が不明	16%	9%	11%	15%	14%	17%	15%	15%	17%	9%	17%	17%	14%	17%	10%	24%	25%	22%	16%	15%	16%	20%	17%
(12%)	12% 自信・アイデンティティの喪失	12%	9%	5%	11%	10%	14%	8%	12%	13%	11%	17%	14%	10%	12%	12%	9%	11%	15%	16%	18%	10%	14%	21%

(カッコ内は2022年)

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ 老後の心配事項:「国の政策変更による老後準備への影響」は若年層、高所得層で高い 「家族の世話や介護」への不安は女性と中所得層で高い

Q 老後の心配事項は何ですか？

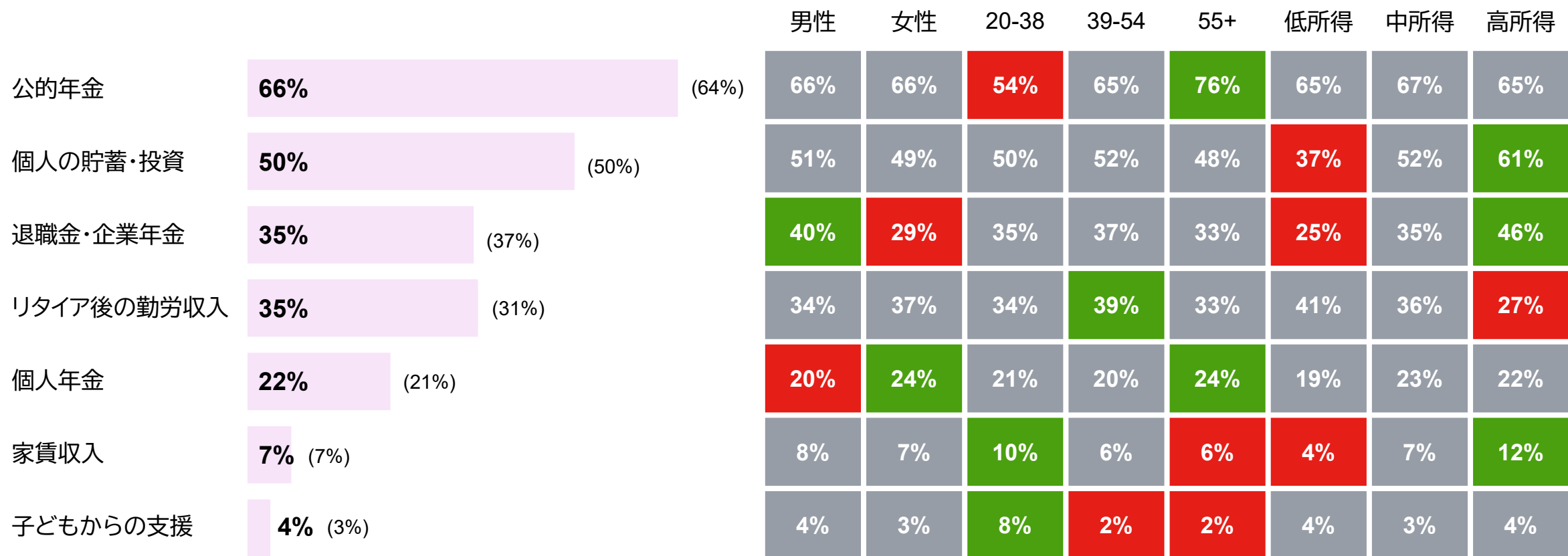
		男性	女性	20-38	39-54	55+	低所得	中所得	高所得
(48%)	47% 健康問題	47%	46%	42%	43%	53%	44%	48%	47%
(28%)	28% 予期せぬ出来事(身近な人の死/資産喪失等)	25%	31%	28%	28%	28%	23%	29%	32%
(28%)	26% 家族の世話や介護	22%	30%	22%	31%	26%	21%	28%	27%
(23%)	25% 老後資金の枯渇	27%	23%	25%	26%	24%	26%	26%	23%
(25%)	25% リタイア後の収入確保の方法がわからない	24%	25%	26%	31%	19%	26%	26%	19%
(21%)	20% 老後も働き続けること	20%	19%	22%	21%	17%	23%	19%	18%
(NA)	17% 国の政策変更による老後準備への影響	17%	18%	21%	19%	13%	12%	17%	22%
(15%)	14% 自分が家族にとって負担となること	15%	14%	15%	15%	13%	12%	15%	15%
(12%)	11% 自信やアイデンティティの喪失	13%	10%	14%	11%	10%	13%	10%	12%

(カッコ内は2022年)

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ 日本人が老後資金の財源として考えるのは、公的年金、次いで個人貯蓄/投資 公的年金は年齢による差が顕著で、高齢者は非常に高い

Q あなたが老後資金として考えている主な財源は？(3つまで)

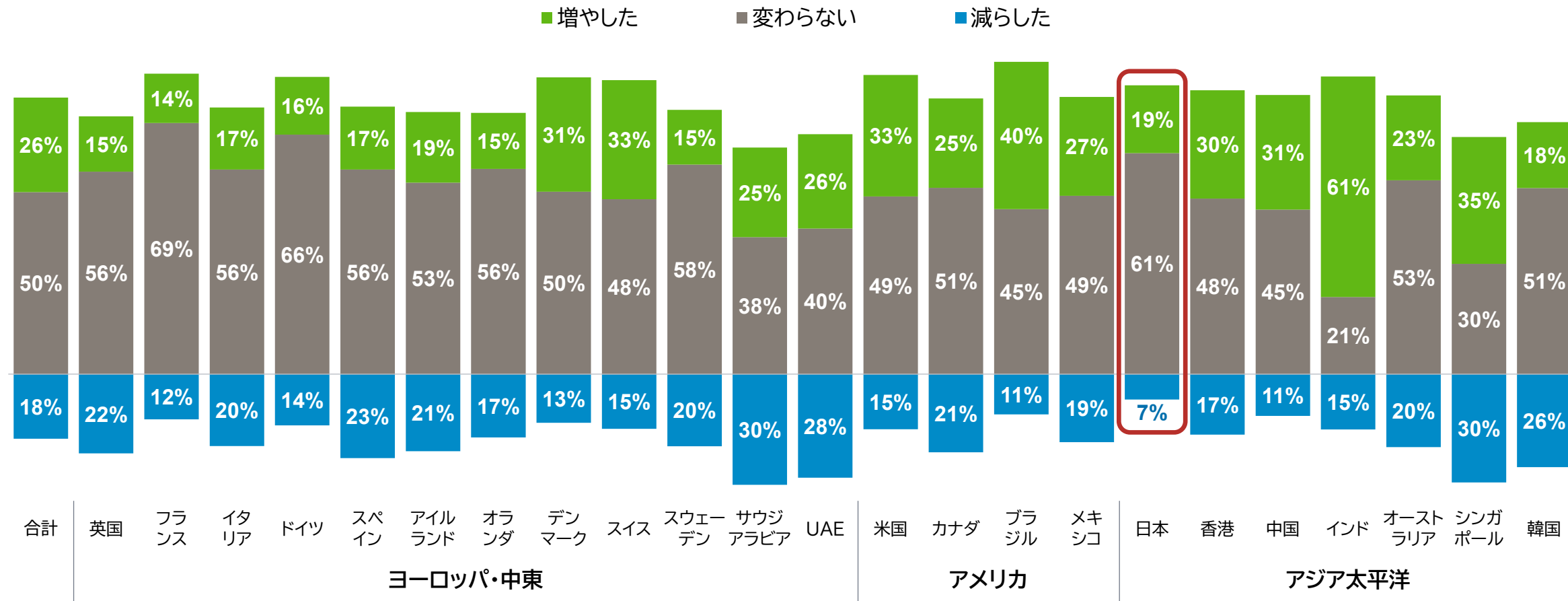


(カッコ内は2022年)

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

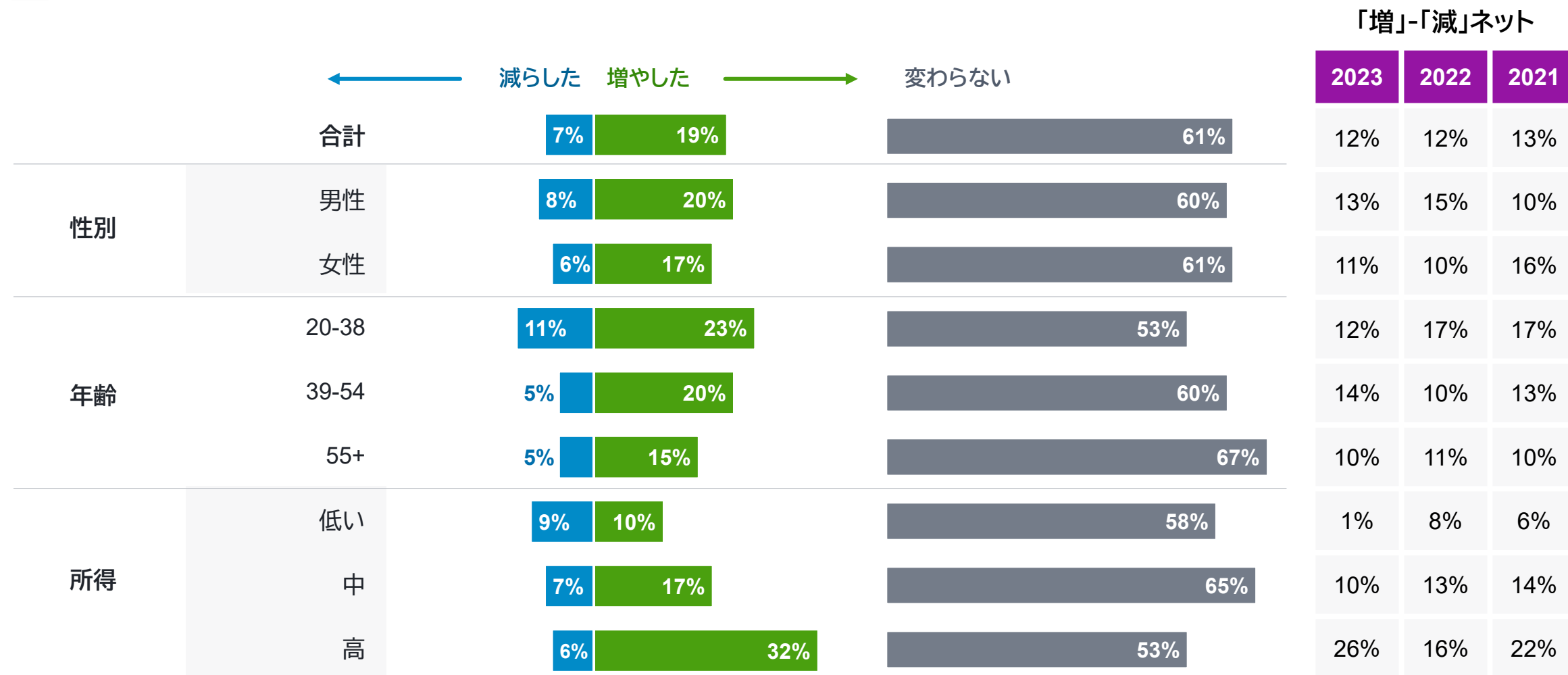
◆ グローバルで過去6か月間に老後資金の積立額を増やした人は24%
インドではこの率が6割を超える

Q この6ヶ月間で老後資金の積立を増やしましたか、減らしましたか？



◆ 日本で老後に向けた積立額を増やした人が多かったのは若年層と高所得層

Q この6ヶ月間で老後資金の積立を増やしましたか、減らしましたか？



◆ リタイア後の生活費の予想：リタイア前の収入の25%-75%とする人が半数 日本は欧州とともに「わからない」とする回答者が多い

Q リタイア後の支出は、リタイア前に比べてどのくらいか？（あるいは、どのくらいになる見込みか？）

			英国	フランス	イタリア	ドイツ	スペイン	アイルランド	オランダ	デンマーク	スイス	スウェーデン	サウジアラビア	UAE	米国	カナダ	ブラジル	メキシコ	日本	香港	中国	インド	オーストラリア	シンガポール	韓国
(11%)	11%	退職前の収入の0～25%	5%	12%	13%	10%	14%	10%	6%	8%	11%	9%	12%	18%	12%	10%	12%	24%	5%	11%	6%	15%	9%	15%	12%
(25%)	25%	退職前の収入の26～50%	16%	15%	18%	20%	19%	25%	13%	18%	18%	12%	42%	39%	22%	22%	22%	29%	17%	35%	37%	38%	21%	33%	31%
(24%)	25%	退職前の収入の51～75%	16%	20%	20%	27%	19%	19%	24%	26%	25%	24%	25%	24%	24%	24%	38%	16%	22%	27%	34%	25%	19%	28%	32%
(9%)	10%	退職前の収入の76～100%	8%	10%	8%	11%	10%	6%	23%	12%	15%	11%	9%	6%	12%	10%	13%	4%	11%	10%	10%	10%	6%	8%	10%
(2%)	2%	退職前の収入の100%以上	3%	2%	2%	1%	1%	1%	3%	1%	2%	1%	1%	1%	2%	2%	4%	3%	2%	1%	1%	2%	2%	1%	1%
(29%)	28%	私にはわからない	52%	41%	40%	31%	37%	39%	31%	35%	29%	42%	11%	11%	29%	32%	11%	24%	44%	15%	13%	11%	44%	15%	14%

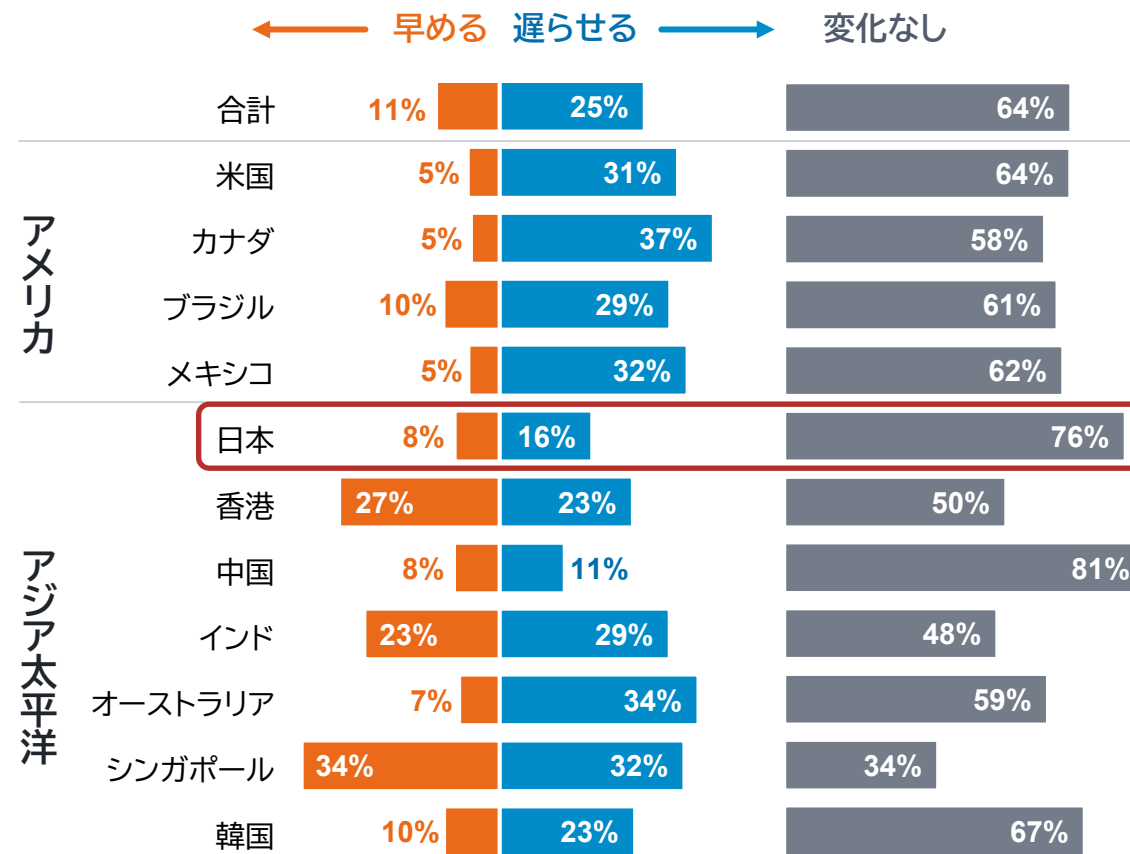
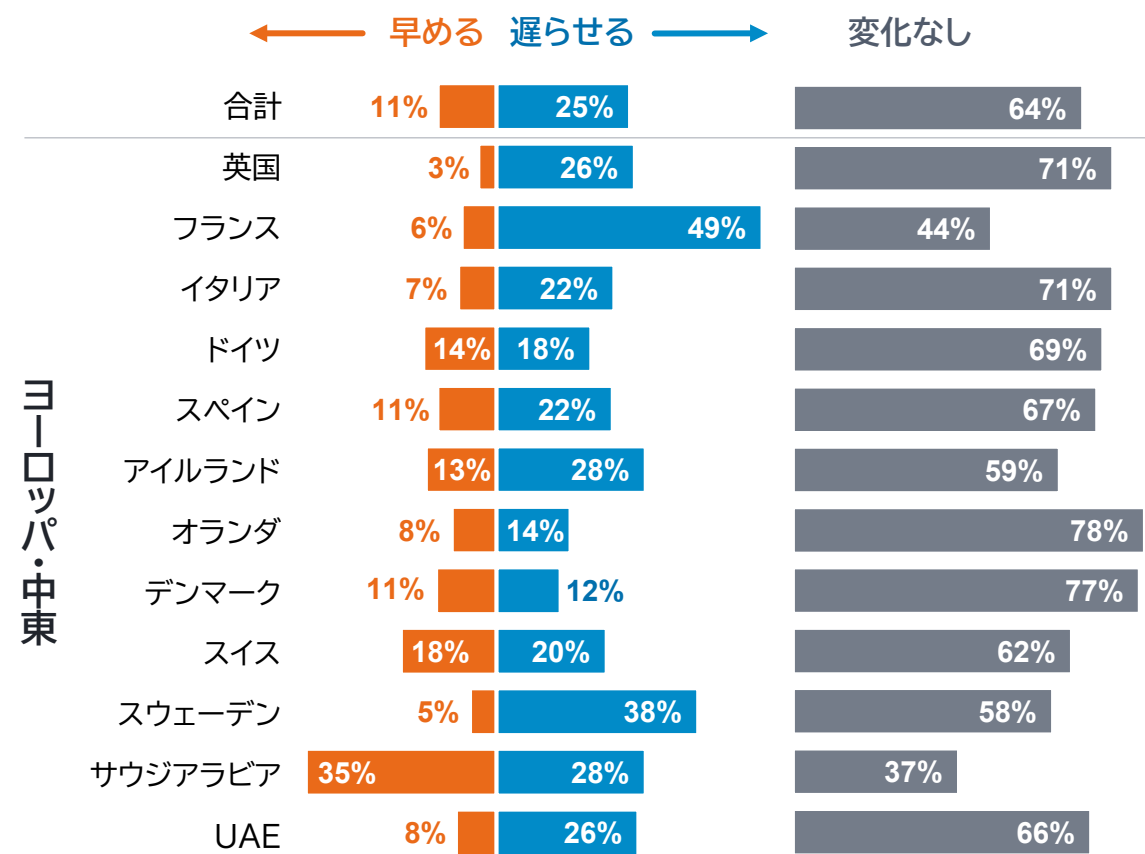
（カッコ内は2022年）

■ 全体よりも有意に高い（信頼度は95%）
■ 全体よりも有意に低い（信頼度は95%）

◆ リタイアする時期を遅らせるとする人はグローバルで25%(昨年より3ポイント上昇)
日本は昨年とほぼ同数値で変化は無いが、フランスは公的年金の受給開始年齢が引き上げられた影響で顕著に多い

Q この6ヶ月間で、リタイアする時期に対する考えは変わりましたか？

(注)これは50歳以上限定の質問



◆ リタイアする時期を早める理由：最も多かった回答は「老後の備えがある」から。 アジアでは「家族の介護」や「新しい仕事が見つからない」が多い

Q リタイア時期を予定より早める理由は？

		英国	フランス	イタリア	ドイツ	スペイン	アイルランド	オランダ	デンマーク	スイス	スウェーデン	サウジアラビア	UAE	米国	カナダ	ブラジル	メキシコ	日本	香港	中国	インド	オーストラリア	シンガポール	韓国
(34%)	37% 早期リタイアが可能だと思える十分な蓄えがある	該当なし	該当なし	該当なし	49%	48%	該当なし	該当なし	該当なし	49%	該当なし	15%	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	38%	24%	33%	31%	該当なし	36%	該当なし
(22%)	24% 健康状態	該当なし	該当なし	該当なし	32%	21%	該当なし	該当なし	該当なし	26%	該当なし	17%	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	34%	19%	30%	24%	該当なし	25%	該当なし
(22%)	22% 老後資金が想定以上に多いことに気づいた	該当なし	該当なし	該当なし	19%	20%	該当なし	該当なし	該当なし	20%	該当なし	24%	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	16%	30%	43%	38%	該当なし	23%	該当なし
(19%)	19% 家族の介護	該当なし	該当なし	該当なし	6%	8%	該当なし	該当なし	該当なし	15%	該当なし	27%	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	20%	28%	33%	34%	該当なし	20%	該当なし
(20%)	17% 遺産を相続した	該当なし	該当なし	該当なし	10%	0%	該当なし	該当なし	該当なし	11%	該当なし	16%	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	17%	35%	12%	37%	該当なし	18%	該当なし
(21%)	16% 配偶者・パートナーがリタイア時期を遅らせた	該当なし	該当なし	該当なし	4%	11%	該当なし	該当なし	該当なし	10%	該当なし	24%	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	7%	28%	23%	37%	該当なし	23%	該当なし
(19%)	13% 解雇・失業後、新しい仕事が見つからない	該当なし	該当なし	該当なし	3%	14%	該当なし	該当なし	該当なし	3%	該当なし	14%	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	3%	21%	25%	25%	該当なし	24%	該当なし

(カッコ内は2022年)

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ リタイアする時期を遅らせる理由:「老後資金が足りないから」が引き続きトップ。 「働くことが好きだから」が2位

Q リタイア時期を予定より遅らせる理由は？

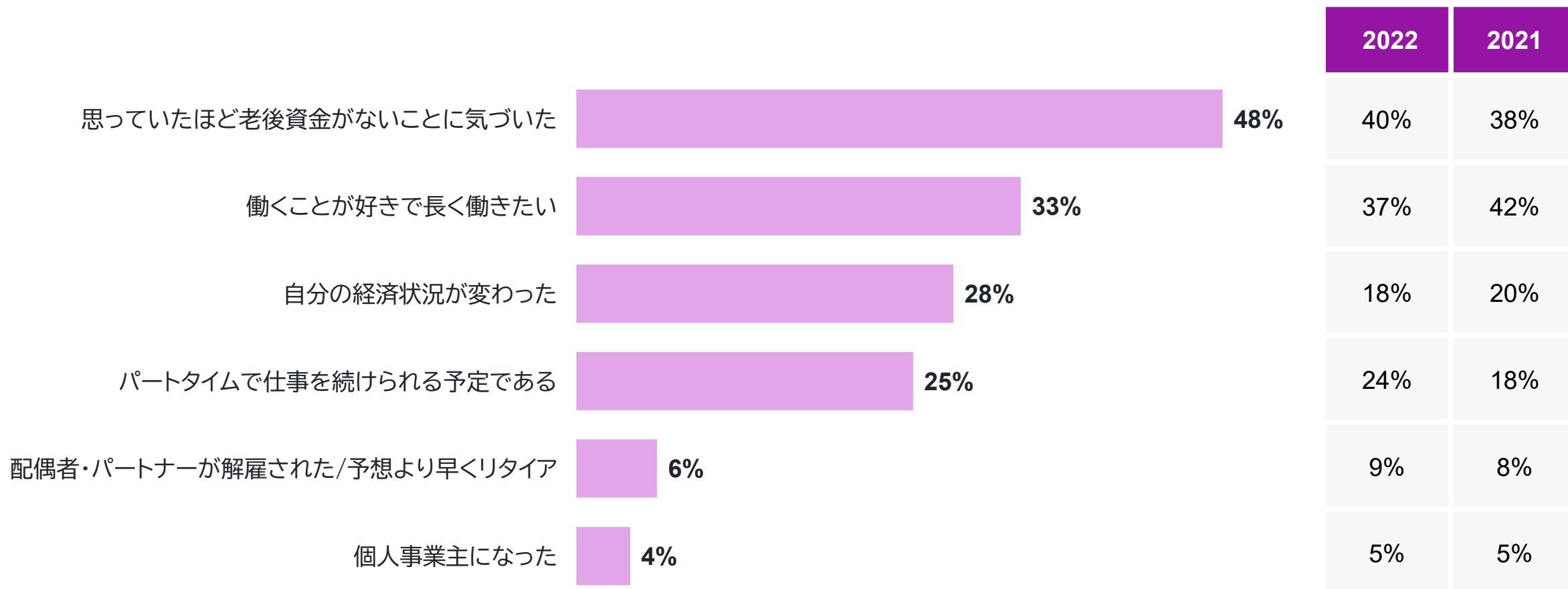
		英国	フランス	イタリア	ドイツ	スペイン	アイルランド	オランダ	デンマーク	スイス	スウェーデン	サウジアラビア	UAE	米国	カナダ	ブラジル	メキシコ	日本	香港	中国	インド	オーストラリア	シンガポール	韓国
(44%)	39%	47%	32%	32%	42%	34%	47%	30%	34%	41%	39%	該当なし	該当なし	50%	51%	28%	36%	48%	41%	27%	39%	56%	26%	34%
(30%)	28%	16%	14%	33%	26%	13%	33%	29%	50%	28%	30%	該当なし	該当なし	19%	24%	34%	29%	33%	35%	34%	55%	24%	31%	37%
(25%)	25%	35%	12%	21%	15%	17%	20%	20%	30%	22%	27%	該当なし	該当なし	29%	38%	24%	40%	28%	26%	26%	27%	25%	32%	22%
(26%)	21%	26%	15%	11%	17%	17%	22%	24%	17%	25%	26%	該当なし	該当なし	24%	17%	10%	14%	25%	22%	41%	34%	17%	29%	29%
(9%)	7%	2%	3%	8%	7%	3%	7%	3%	5%	7%	3%	該当なし	該当なし	6%	7%	8%	3%	6%	12%	17%	11%	3%	17%	10%
(7%)	6%	8%	2%	5%	5%	6%	4%	6%	2%	13%	2%	該当なし	該当なし	2%	2%	9%	16%	4%	7%	15%	14%	1%	13%	6%

(カッコ内は2022年)

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ 日本では、リタイア時期を遅らせるとする回答した人の理由で、約半数が「思っていたほど老後資金がないことに気づいた」と回答。この数値は前年と比し急増。

Q リタイア時期を予定より遅らせる理由は？

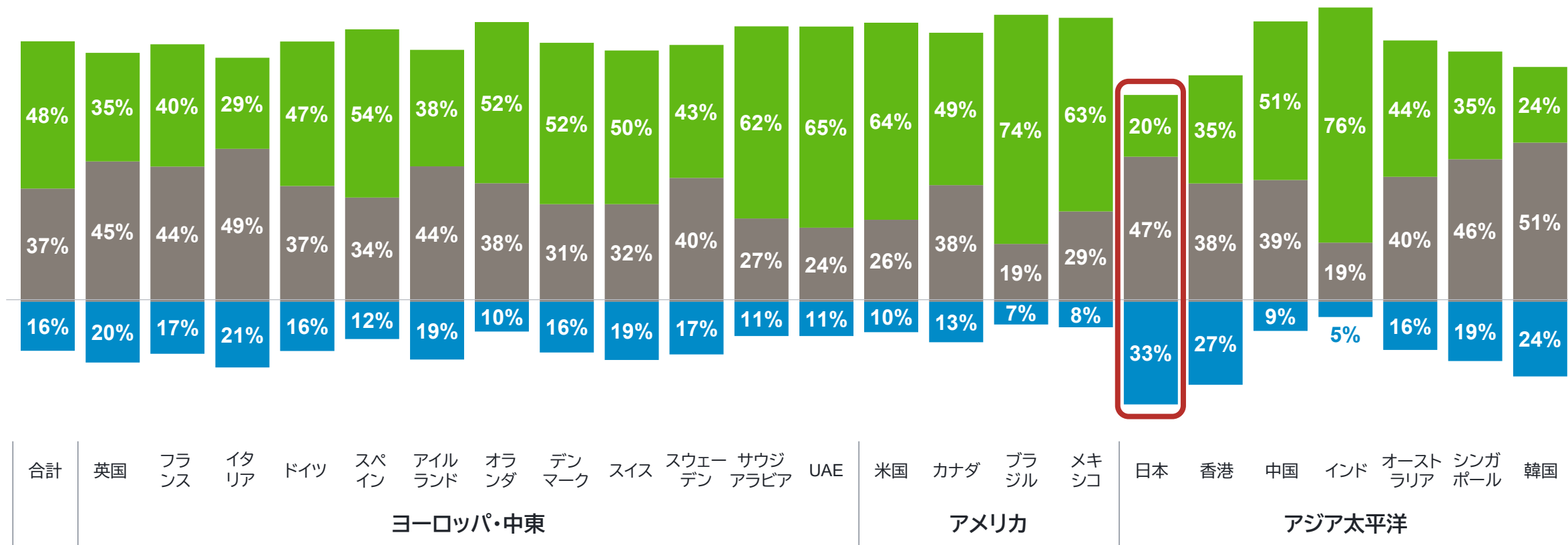


Work 仕事

◆ 仕事への満足度：世界では約半数の人が今の仕事に満足している。
満足度が特に高いのはブラジル、インド。一方、日本は満足度が世界で最も低い国。

Q あなたは今の仕事にどの程度満足していますか？

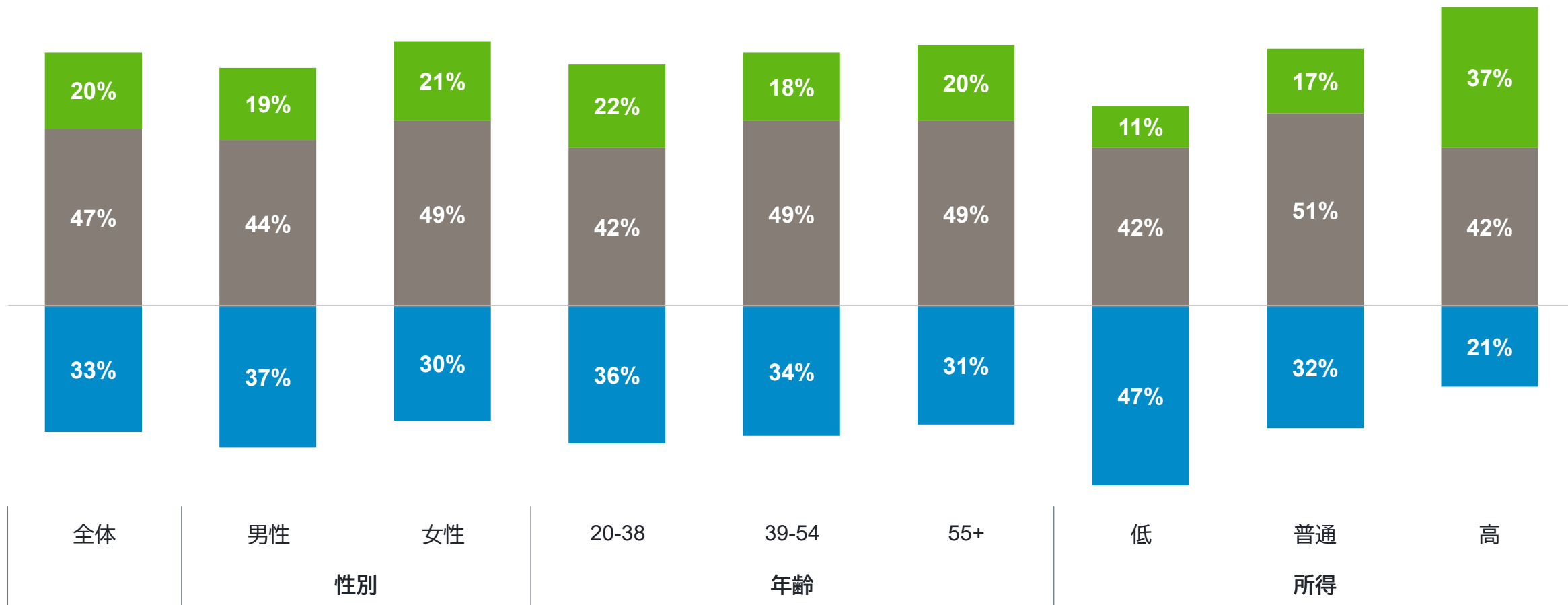
■ 満足している ■ どちらでもない ■ 満足していない



◆ 仕事への満足度：日本では3分の1の人が今の仕事に満足していない。

Q あなたは今の仕事にどの程度満足していますか？

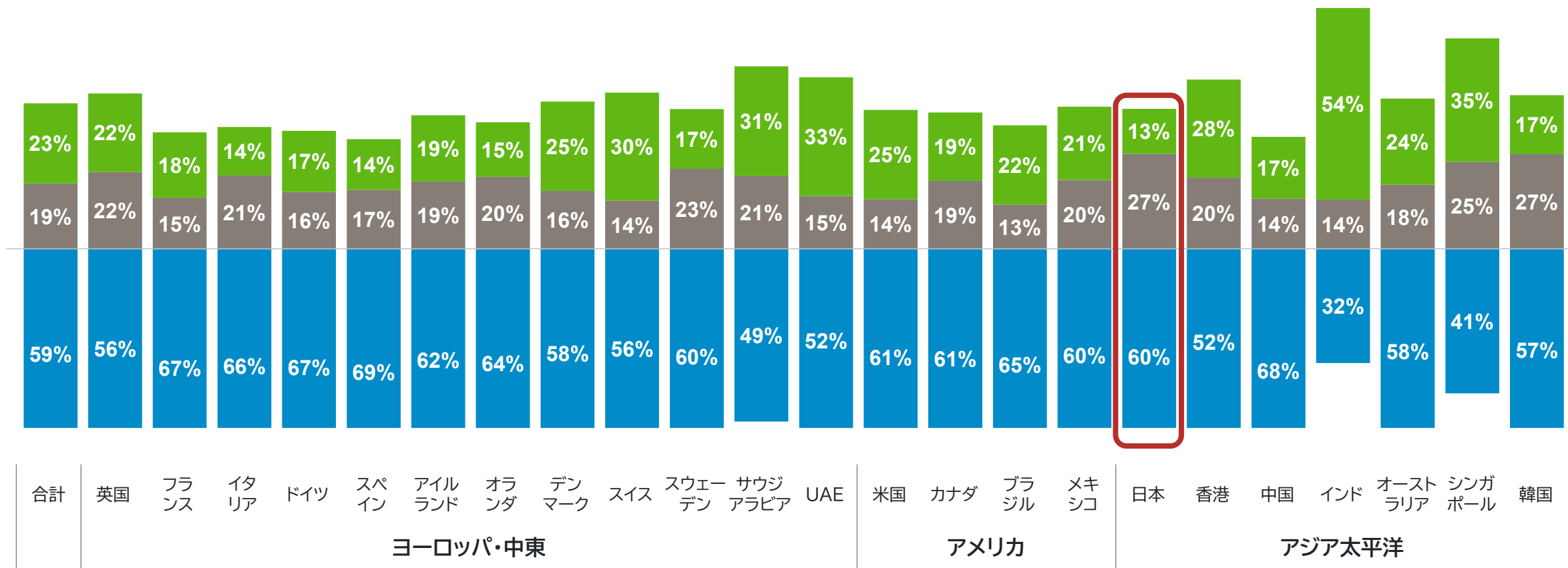
■ 満足している ■ どちらでもない ■ 満足していない



◆ 離職の可能性: 世界では23%の人が今後6カ月以内に離職する可能性あり。
インド、サウジアラビア、UAEの数値が高い。

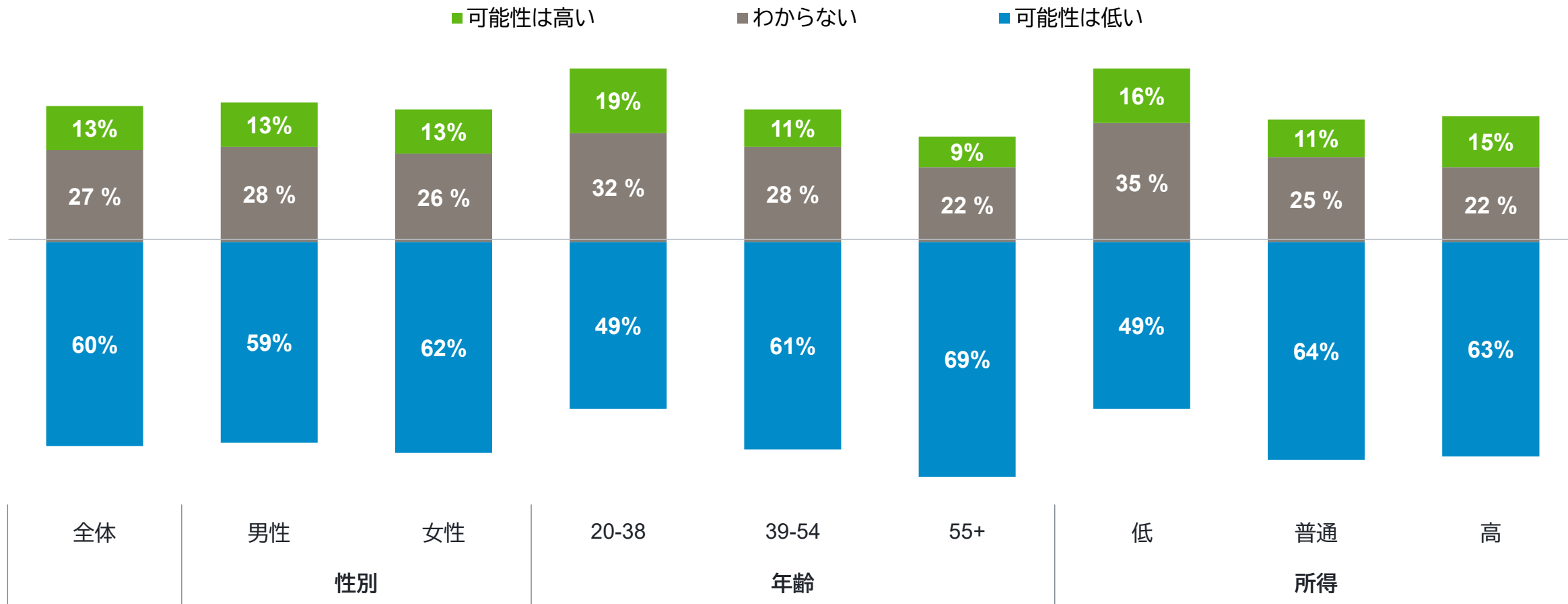
Q 今後6カ月以内に今の組織を離れる可能性はどのくらいありますか？

■可能性は高い ■わからない ■可能性は低い



◆ 離職する可能性：日本は今の仕事への満足度が低いにもかかわらず、今後6カ月以内に離職する可能性があるとは回答した人は13%。ただし、若年層だけでは19%に増える。

Q 今後6カ月以内に今の組織を離れる可能性はどのくらいありますか？



◆ 離職を考えるきっかけ: グローバルでは、不十分な報酬とキャリア形成機会の欠如が多い(特に若者や低所得層)

Q 現在の仕事を辞める可能性が高い理由は何ですか？

	男性	女性	20-38	39-54	55+	低所得	中所得	高所得
25% 報酬が低い	24%	26%	25%	27%	22%	29%	24%	22%
23% キャリア形成機会の欠如	23%	23%	24%	25%	16%	24%	22%	22%
20% 雇用の安定性	21%	19%	21%	21%	15%	24%	18%	20%
18% 幹部のリーダーシップの欠如/刺激のなさ	18%	19%	17%	20%	18%	19%	18%	17%
18% 仕事にやりがいがない	18%	18%	18%	19%	15%	18%	17%	18%
17% 仕事のワークロード	17%	18%	18%	19%	14%	16%	18%	18%
17% 自分の居場所がない	16%	19%	17%	20%	15%	20%	16%	16%
16% 上司との人間関係	16%	16%	16%	16%	15%	14%	16%	18%
16% 自分のニーズに合った福利厚生制度がない	17%	14%	18%	16%	9%	15%	16%	16%
15% オフの時間が少ない	14%	17%	16%	15%	12%	15%	16%	15%
15% 自由裁量権がない	15%	14%	15%	15%	11%	14%	15%	15%
14% リタイア予定、引越する	14%	14%	12%	12%	22%	12%	15%	15%
14% 健康上(心身)の問題	14%	13%	15%	13%	11%	13%	13%	15%
13% 同僚との人間関係	14%	13%	13%	16%	9%	11%	13%	15%
13% 職場の安全性に対する懸念	13%	13%	13%	13%	12%	13%	12%	14%
13% 退職給付が不十分	13%	12%	13%	13%	11%	12%	13%	13%
11% 介護の必要性	11%	11%	12%	10%	8%	8%	10%	14%
11% 医療給付が不十分	11%	10%	12%	11%	6%	10%	10%	11%
5% その他の理由	4%	7%	2%	4%	13%	7%	5%	4%

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)

■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ 離職を考えるきっかけ:「離職する可能性が高い」と回答した人の多くは、「報酬が低い」(特に低所得層)と「仕事にやりがいがない」(中堅層)「ワークロード」をあげる。

Q 現在の仕事を辞める可能性が高い理由は何ですか?(上位10項目)

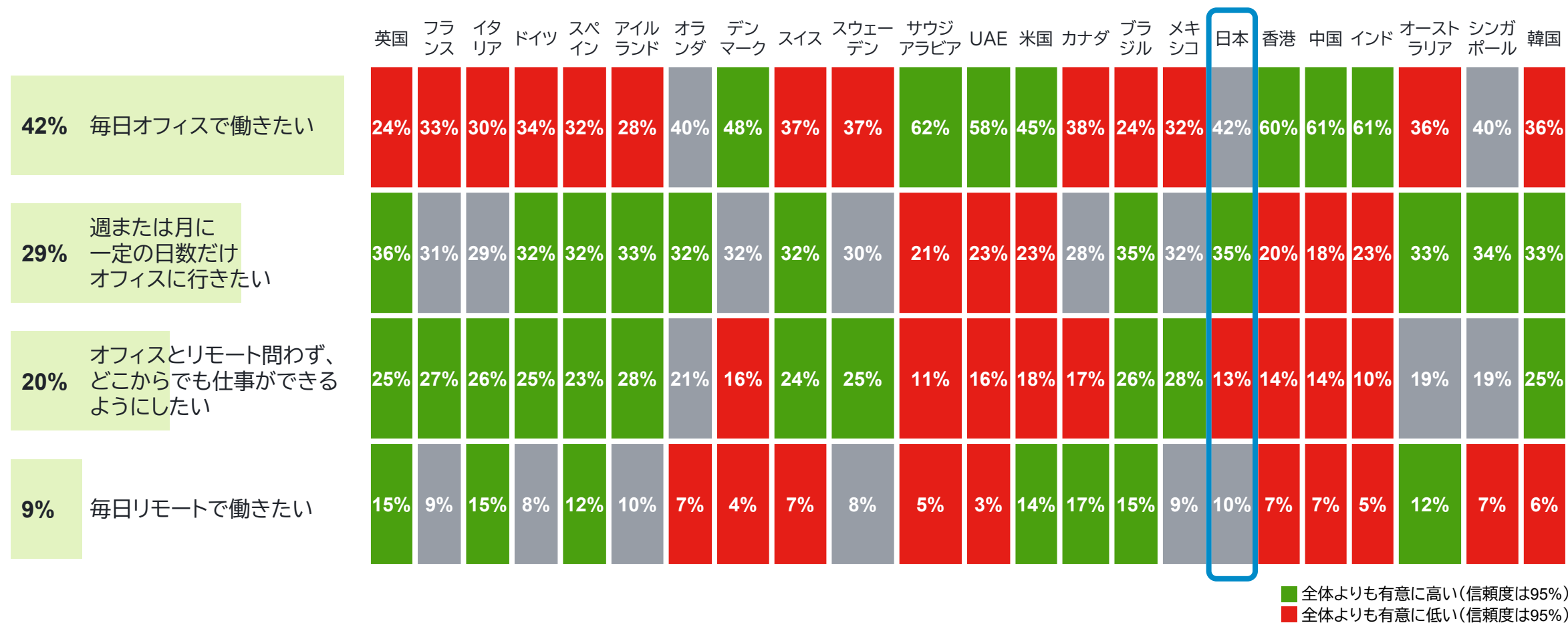
	男性	女性	20-38	39-54	55+	低所得	中所得	高所得
35% 報酬が低い	36%	34%	41%	37%	26%	47%	33%	25%
28% 仕事にやりがいがない	29%	27%	22%	38%	27%	36%	30%	14%
20% 仕事のワークロード	21%	19%	18%	27%	16%	21%	26%	9%
19% 上司との人間関係	21%	16%	13%	23%	23%	19%	18%	18%
18% 雇用の安定性	18%	18%	23%	17%	10%	25%	14%	16%
17% オフの時間が少ない	18%	16%	17%	18%	15%	18%	15%	19%
16% キャリア形成機会の欠如	15%	17%	10%	27%	14%	9%	15%	26%
15% 幹部のリーダーシップの欠如/刺激のなさ	20%	11%	10%	15%	24%	12%	18%	14%
15% 同僚との人間関係	13%	17%	14%	21%	10%	16%	16%	11%
15% 健康上(心身)の問題	13%	16%	10%	16%	21%	12%	14%	18%

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)

■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ グローバルでは、42%の人が毎日オフィスで働きたいと回答。
49%の人はリモートワークとオフィス通勤のハイブリッドを望んでいる

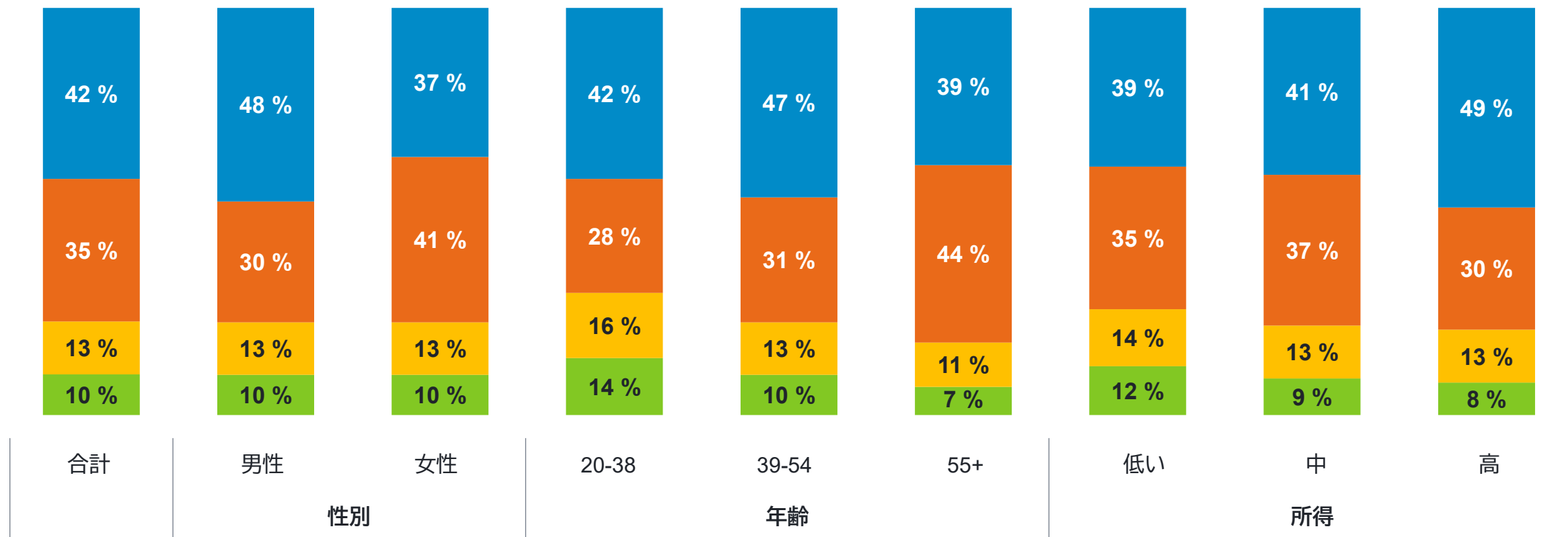
Q あなたが一番望む働き方は以下のどれですか？



◆ 日本では毎日出社したいとする人が最も多く、毎日リモートワークしたい人は1割。
しかし、女性と高齢層は柔軟な働き方を望む割合が高い

Q あなたが一番望む働き方は以下のどれですか？

■ 毎日オフィスで働きたい
■ オフィスとリモート、どこからでも仕事ができるようにしたい
■ 週または月に一定の日数だけオフィスに行きたい
■ 毎日リモートで働きたい



- ◆ 雇用主が真っ先に改善を行うべき項目:「基本給・賞与」は共通だが、日本では「ワークライフバランス」「各種手当」「やりがいのある仕事」がランクイン。
「株式報酬」は圏外。「基本給」「ボーナス」は中堅層、「休暇」は若年層が重視。

Q 雇用主が真っ先に改善を行うべき項目は何だと思いますか？

グローバル

32%	高い基本給
26%	魅力的な賞与
21%	有給休暇等休暇制度
18%	退職給付制度
17%	健康保険
16%	ワークライフバランス
10%	メンタルヘルス支援
9%	株式報酬制度
9%	生命保険・障害保険
9%	雇用の安定・保障

日本

56%	高い基本給
30%	魅力的な賞与
18%	ワークライフバランス
17%	有給休暇等休暇制度
14%	通勤手当等の各種手当
11%	やりがいのある仕事
11%	退職給付制度
9%	雇用の安定・保障
9%	適切なワークロード
9%	メンタルヘルス支援

男性	女性	20-38	39-54	55+	低所得	中所得	高所得
57%	55%	53%	63%	53%	57%	58%	51%
33%	28%	33%	34%	25%	31%	30%	29%
18%	19%	16%	20%	18%	15%	19%	20%
17%	17%	20%	16%	15%	18%	18%	14%
12%	15%	12%	15%	14%	18%	14%	8%
11%	11%	4%	11%	16%	9%	11%	12%
11%	10%	8%	9%	13%	8%	10%	14%
9%	9%	5%	10%	11%	10%	10%	6%
8%	10%	9%	7%	10%	9%	10%	6%
8%	9%	9%	10%	8%	8%	8%	10%

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ 会社に残留するか否かで重視する項目：前ページと同様の項目が重視されるが、「雇用の安定」がランクアップし、「同僚との交流」も入ってくる

Q 会社に残る否かを決める際に最も重要な項目は何ですか？

グローバル

36%	高い基本給
31%	魅力的な賞与
31%	有給休暇等の休暇制度
25%	ワークライフバランス
24%	健康保険
22%	退職給付制度
17%	雇用の安定・保障
13%	適切なワークロード
12%	生命保険・障害保険
12%	メンタルヘルス支援

日本

	男性	女性	20-38	39-54	55+	低所得	中所得	高所得
62% 高い基本給	63%	60%	56%	67%	61%	59%	64%	59%
37% 魅力的な賞与	40%	33%	37%	41%	32%	34%	38%	36%
33% 有給休暇等休暇制度	30%	35%	32%	34%	32%	31%	34%	32%
29% ワークライフバランス	30%	28%	29%	32%	27%	26%	30%	29%
24% 通勤手当等の各種手当	21%	28%	21%	25%	27%	28%	24%	20%
22% 雇用の安定・保障	19%	25%	14%	23%	27%	23%	23%	18%
19% やりがいのある仕事	20%	19%	10%	19%	26%	17%	20%	20%
17% 同僚とのポジティブな関係	13%	21%	14%	18%	19%	18%	18%	14%
16% 退職給付制度	16%	16%	13%	14%	19%	14%	15%	18%
16% 適切なワークロード	15%	16%	12%	15%	19%	17%	17%	11%

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)

■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

◆ 自分は素晴らしい仕事をしていると考えるうえで重視する項目：日本では「同僚や上司とのポジティブな関係」がランクイン。グローバルでは入る福利厚生制度は圏外。

Q 自分は素晴らしい仕事をしていると考えるうえで最も大切な項目は？

グローバル

32%	高い基本給
31%	魅力的な賞与
27%	有給休暇等の休暇制度
24%	ワークライフバランス
23%	健康保険
20%	退職給付制度
16%	雇用の安定・保障
13%	適切なワークロード
12%	株式報酬制度
12%	生命保険・障害保険

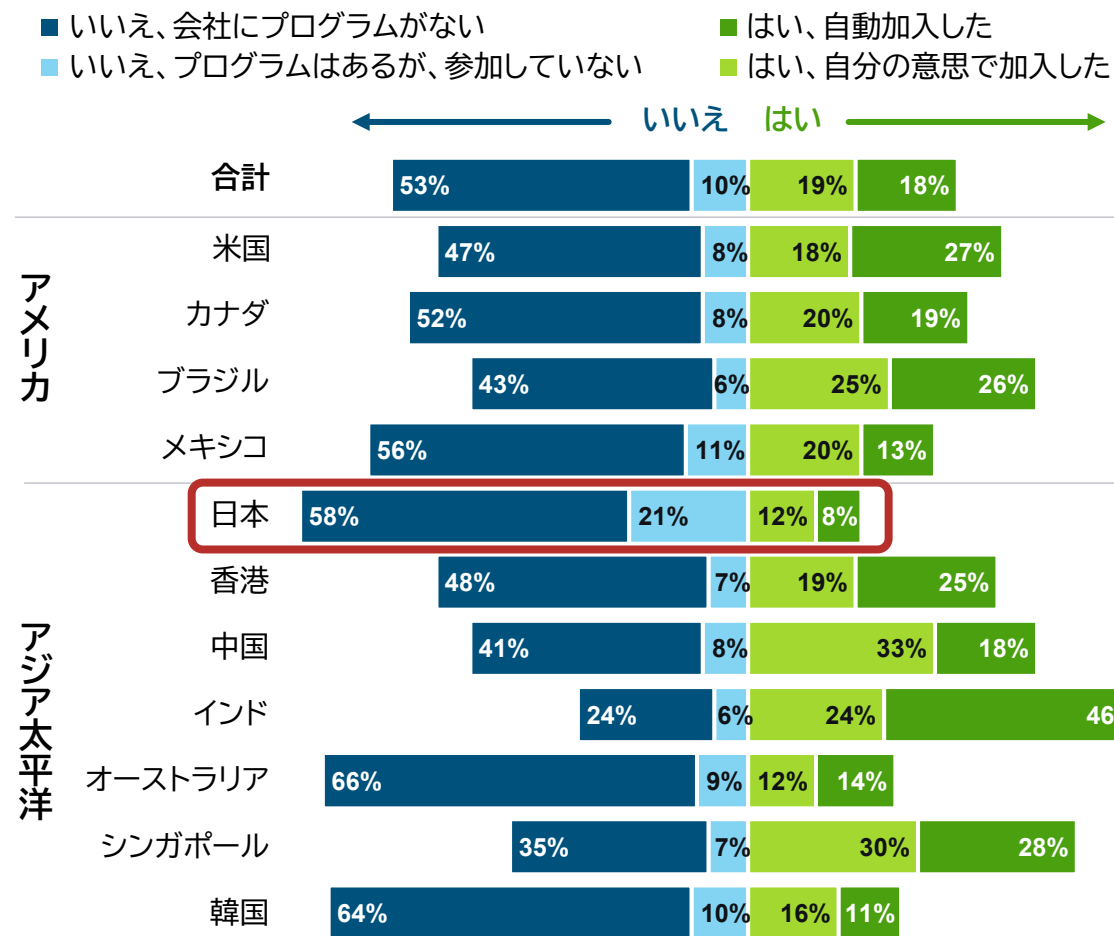
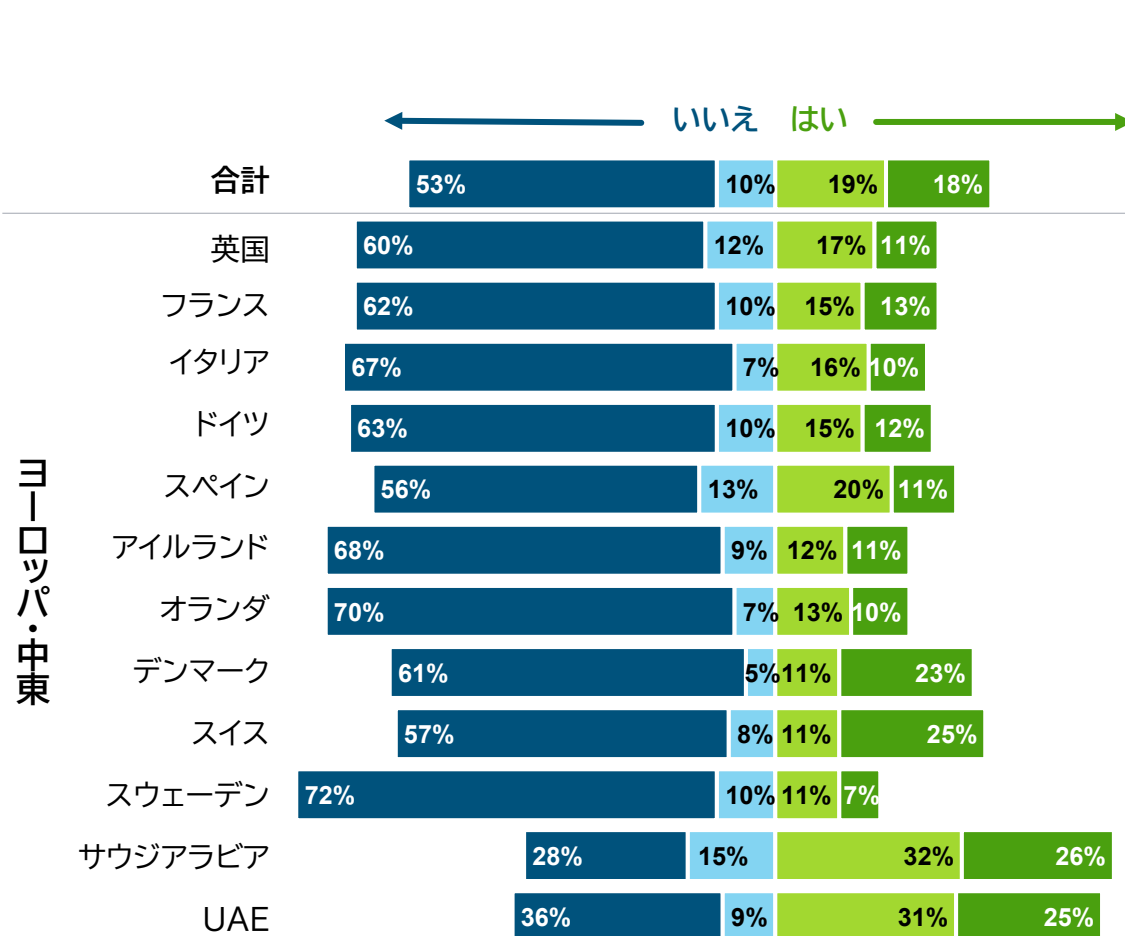
日本

	男性	女性	20-38	39-54	55+	低所得	中所得	高所得
40% 高い基本給	40%	39%	38%	40%	40%	37%	39%	42%
27% 魅力的な賞与	29%	24%	29%	28%	24%	22%	27%	31%
24% 有給休暇等の休暇制度	22%	27%	24%	24%	24%	23%	25%	23%
23% ワークライフバランス	22%	24%	19%	25%	24%	23%	23%	23%
23% やりがいのある仕事	21%	24%	13%	22%	30%	20%	24%	21%
20% 雇用の安定・保障	19%	21%	14%	22%	23%	18%	21%	20%
18% 同僚とのポジティブな関係	15%	23%	13%	21%	20%	18%	21%	14%
16% 通勤手当等の各種手当	15%	18%	13%	16%	19%	20%	15%	14%
15% 適切なワークロード	16%	15%	10%	17%	18%	19%	16%	11%
15% 上司とのポジティブな関係	12%	18%	10%	16%	18%	14%	15%	16%

■ 全体よりも有意に高い(信頼度は95%)
 ■ 全体よりも有意に低い(信頼度は95%)

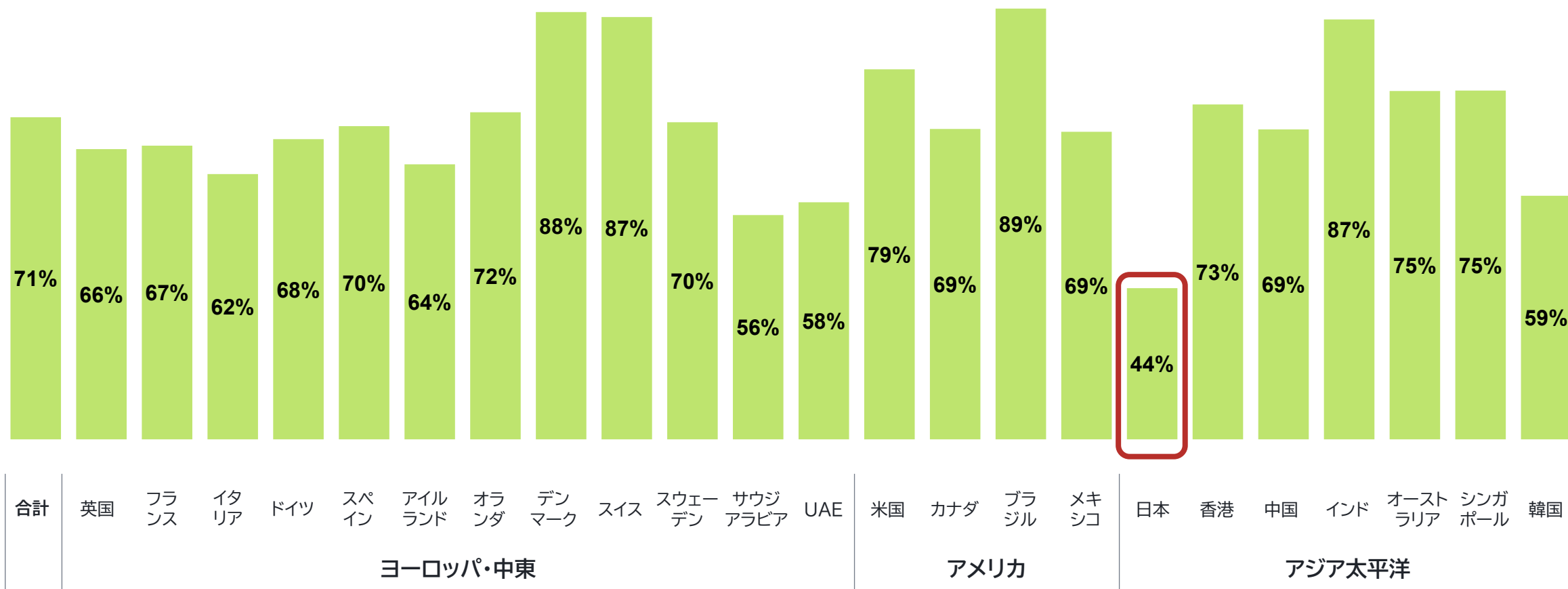
◆ 自社株式関連の報酬・福利厚生プログラム：グローバルでは従業員の約4割が何らかの制度に加入。日本の加入率は最低クラス

Q 現在、会社の自社株式関連の報酬・福利厚生プログラムに加入していますか？



◆ グローバルでは7割の人が自社株式関連の報酬・福利厚生プログラムについて十分な情報を持っていると回答。日本はYESの回答率が最も低い。

Q あなたは会社の自社株式関連の報酬・福利厚生プログラムについて十分な情報を持っていると思いますか？（はいと回答した人の割合）



■ フィデリティ・グローバル・センチメント・サーベイについて

本調査の対象者は以下のとおりです。

- 年齢: 20～75歳
- 本人もしくは配偶者・パートナーのいずれかがフルタイムもしくはパートタイムで勤務
- 世帯収入が以下の金額以上
 - ・ 英国: GBP £10,000 / 年、フランス: EUR €20,000 / 年、イタリア: EUR €15,000 / 年、ドイツ: EUR €20,000 / 年、
スペイン: EUR €15,000 / 年、アイルランド: EUR €20,000 / 年、オランダ: EUR €20,000 / 年、デンマーク: DKK Kr100,000 / 年、
スイス: CHF ₣20,000 / 年、スウェーデン: SEK Kr200,000 / 年、サウジアラビア: SAR 4,000 ر.س.س / 月、UAE: AED 5,000 إ.د. / 月
 - ・ 米国: USD \$20,000 / 年、カナダ: CAD \$30,000 / 年、メキシコ: MXN \$4,500 / 月、ブラジル: BRL \$1,501 / 月
 - ・ 日本: 150万円 / 年、韓国: KRW ₩1.0m / 月、香港: HKD \$15,000 / 月、中国: CNY ¥5,000 / 月、インド: INR ₹55,001 / 年
オーストラリア: AUD \$45,000 / 年、シンガポール: SGD \$2,000 / 月

データ収集・分析期間: 2023年7月-10月

■ ご注意点

当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。

当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。

当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として申し述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。

当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りいたします。

フィデリティ投信株式会社 金融商品取引業者

登録番号：関東財務局長(金商)第388号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

DC240711-1